

第5章 西側古墓群（Ⅱ）

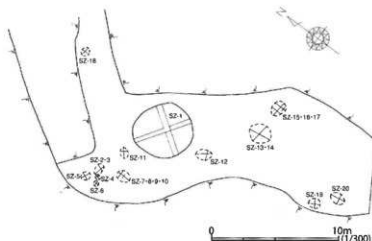
1. これまでの調査

西側古墓群は、昭和57年(1982)2月に、西側遺跡北東約200mの正太寺東側において、葡萄畑の造成工事中に蔵骨器が偶然発見され、その存在が初めて明らかとなった遺跡である。現在、正太寺と調査地との間には、明治27年(1894)に完成した風呂用水が開削され完全に分断されているが、正太寺との比高は殆ど無く、調査地はかつて正太寺領であったと伝えられている。この発見により、緊急調査が5日間実施され、第5-1図第1次発掘調査平面図にある12世紀末～15世紀の塚墓1基、土墳墓8基、集石墓11基が調査され、五輪塔、一石五輪塔、古瀬戸の甕・四耳壺・梅瓶・瓶子、奈良産の広口壺、常滑産の壺・小甕などが出土した。その内容は、芳賀陽・小畑頼孝・石川明弘(2003)『車神社古墳・宮脇1号墳・西側古墓群』として報告されている。

なお、今回の調査中に、第1次発掘調査のきっかけとなった2点の蔵骨器が、土地所有者(矢野重夫氏)の倉庫より発見され、市教委に寄贈された。よって、今回これらの遺物も報告し、寄贈者への謝意をしたい。

2. 調査の経過と地区割の設定

今回の調査は、昭和57年(1982)の第1次発掘調査から、26年ぶりの第2次発掘調査となる。調査対象地は第5-2図調査区位置図に示すように2ヵ所に分断されており、西側のA地区とした方は第1次発掘調査の調査地に一部重なっており、東側のB地区とした方は新規でA地区の東約30mに位置する。調査に先立って、遺跡確認のための試掘調査を実施した。試掘トレンチは、A地区において傾斜に合わせて南北にA～Dの4トレンチ、B地区においては調査地の形状に合わせてE～Gの3トレンチ100mを設定した。この結果、A地区においては、北側への傾斜地に設定した3本のトレンチで遺構が検出されたが、南側では地山まで既に削平されていて遺構は検出されなかった。このため、市教

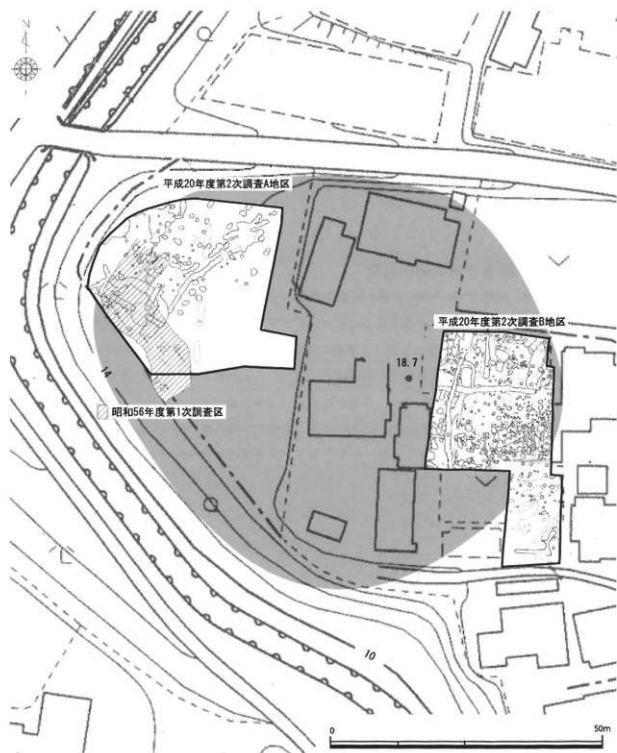


第5-1図 第1次発掘調査平面図

委との協議により、A地区においては北側を中心に、B地区では表上下0.1～0.4 m以内の極めて浅い所から全面に遺構が検出されたため、合計1,890 m²を調査した。

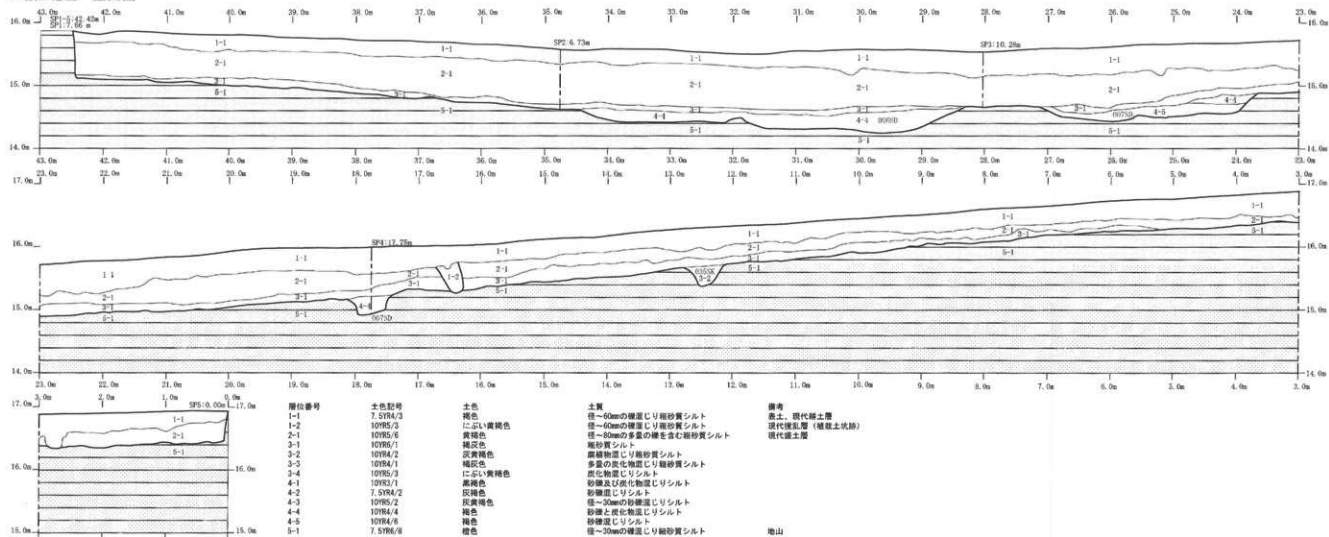
測量基準は、調査対象地周辺に8カ所の新点を設けて実施した。地区割のグリッド名は、北西隅 (X=-134800、Y=22840) より10 m毎に東にA～J、南に1～10としてグリッドを設定し、組み合わせて呼称した。

以下には、A地区とB地区で検出された遺構について報告する。

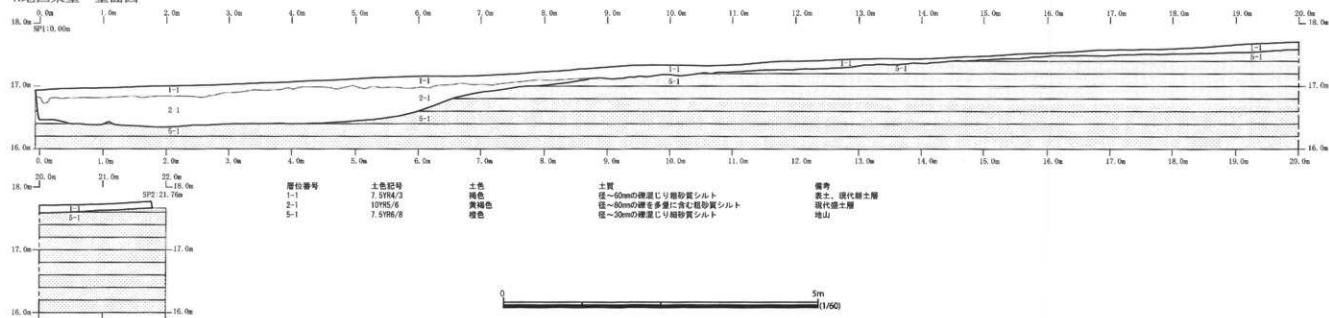


第5-2図 調査区位置図

A地区北壁 壁面図



A地区東壁 壁面図



第 5-3 図 A 地区壁面図



3. A地区

A地区は、北西下がりの傾斜地で、西側と南側が明治27年に完成した牟呂用水の切り通しにより、北側が市道の切り通しによって何れも崖となっており、東側はB地区も含め平場となっている。調査前の標高は、南側の住宅際が18.4m、北側の市道際が15.5mであった。調査地は、第1次発掘調査が行われた後、南側の高い部分をブルドーザーにより地山層まで削平し、北側の低い部分に直接掘削土を盛土して、葡萄畑として土地利用したものとみられる。

1) 基本層序

基本層序は、1層が現代の表土層と攪乱層、2層が現代の盛土層、3層が葡萄畑前の現代の表土層、4層が縄文時代中期の遺構埋土層、5層が地山層である。基本層序は、攪乱を受けていた西壁面と削平を受けていた南壁面を除いた、第5-3図A地区壁面図により観察できた。

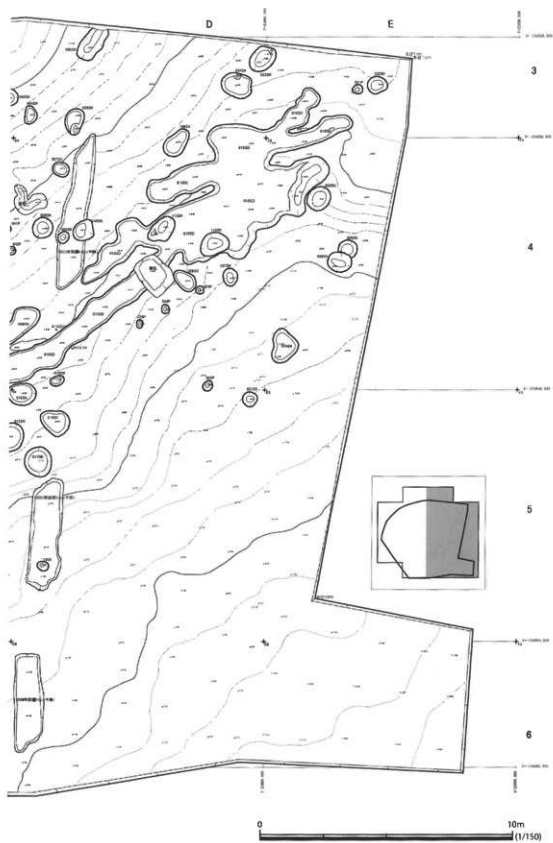
- ・1-1層は、褐色(7.5YR4/3)で、 $\phi \sim 60$ mmの砂礫混じり細砂質シルト層。層厚は0.05～0.5mで、北西側が下がり、北西が最も厚い。葡萄畑の時の耕土層。
- ・1-2層は、にぶい黄褐色(10YR5/3)で、 $\phi \sim 60$ mmの砂礫混じり細砂質シルト層。植栽土坑等の現代攪乱層。
- ・2-1層は、黄褐色(10YR5/6)で、 $\phi \sim 80$ mmの多量の礫を含む細砂質シルト層。層厚は0.1～0.6mで、ブルドーザーによる掘削盛土層。
- ・3-1層は、褐灰色(10YR6/1)で、粗砂質シルト層。層厚は0.05～0.25mで、葡萄園の造成前の旧耕土層。
- ・3-2層は、灰黄褐色(10YR4/2)で、腐植物混じり粗砂質シルト層。
- ・3-3層は、褐灰色(10YR4/1)で、多量の炭化物混じり粗砂質シルト層。
- ・3-4層は、にぶい黄褐色(10YR5/3)で、炭化物混じりシルト層。
- ・4-1層は、黒褐色(10YR3/1)で、砂礫及び炭化物混じりシルト層。前方後方形周溝墓110SZの周溝跡005SD上層堆積層。
- ・4-2層は、灰褐色(7.5YR4/2)で、砂礫混じりシルト層。前方後方形周溝墓110SZの周溝跡005SD下層と004SDの堆積層。
- ・4-3層は、灰黄褐色(10YR5/2)で、 $\phi \sim 30$ mmの砂礫混じりシルト層。溝跡010SDの堆積層。
- ・4-4層は、褐色(10YR4/4)で、砂礫と炭化物混じりシルト層。溝跡007SD上層と溝跡006SDの堆積層。
- ・4-5層は、褐色(10YR4/6)で、砂礫混じりシルト層。溝跡007SDの下層堆積層。
- ・5-1層は、橙色(7.5YR6/8)で、 $\phi \sim 30$ mmの砂礫混じり細砂質シルト層。土石流起源の地山層。

2) A地区の遺構と遺物

A地区の遺構は、全て5-1層上面で検出した。検出した遺構は、第5-4図A地区平面図1・2にみられる溝2条(008SD・010SD)、前方後方形周溝墓1基(110SZ)、杭穴・支柱柱穴45個、植栽土坑等



第5-4图 A地区平面图1



第5-4图 A地区平面图2

58 基、溝状遺構 2 基 (077SX・083SX)、擾乱土坑 4 基、第 1 次調査試掘トレンチ跡 3 カ所 (001～003SX)、今回の試掘調査 B トレンチ跡 3 カ所等がある。出土遺物については、第 5-5 図 A 地区遺物実測図の遺物が出土した。

A. 溝

006SD

溝 006SD は、007SD の西側である B3・B4 グリットにあって、その大部分を北壁より北側に広げるとみられる溝状遺構である。幅は最大 1.8 m、深さ 0.2～0.4 m、浅い皿状。堆積層は、4-4 層のみであることから、007SD とは異なる溝である可能性が高い。しかし、遺構の性格は、堆積物から 007SD とよく似た蛇行する自然流路と考えられる遺構である。出土遺物には、弥生時代中期の壺破片が出土している。

遺構の時期は、弥生時代中期後葉・長床様式と思われる。

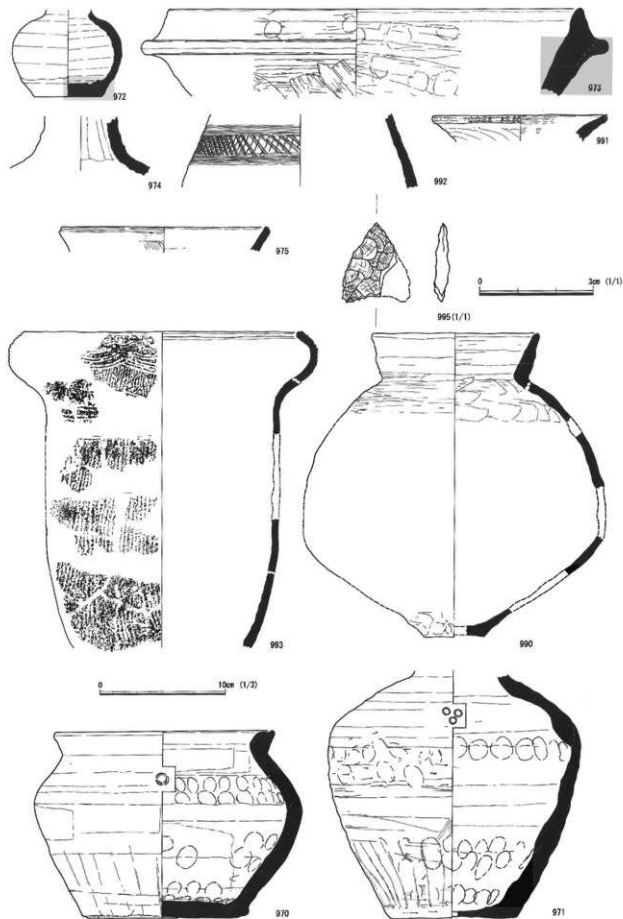
007SD

溝 007SD は、B3・C3・C4 グリットの調査区北壁際斜面上を蛇行する、不整形な自然流路と考えられる遺構である。北壁面 18 m 付近からと南側から流れ込んだ水が、一端堆積していたような自然の窪みのような遺構である。窪み部は長辺 7.4 m、短辺 3.1 m、深さ 0.1～0.5 m で、溝部の幅は 0.5～1.3 m で、深さは 0.15～0.25 m、溝部を除き浅い皿状。堆積層は、上層が 4-4 層、下層が 4-5 層である。この 4-5 層上位より、縄文時代中期中富Ⅱ式併行の深鉢 993 の約 1/3 が押し潰されバラバラの状態で、黒曜石の打製無茎石鏃片 995 と共に発見された。他に出土した遺物は無い。

遺構の時期は、下層の 4-5 層が再堆積とは考えられないため、縄文時代中期に堆積時期の一端があると考えられる。

008SD・010SD (第 5-6 図 A 地区遺構断面図)

溝 008SD・溝 010SD は、C4・C5・D3・D4・E3・E4 グリットにあって、調査区の標高 16.5 m 付近を北東隅から南西隅に向かって流れていた複数の溝跡である。北東隅では平行する北より東に 42° の延長 8.6 m と、北より東に 69° で途中途切れて 008SD に繋がる延長 16.2 m の 2 条の溝跡と、蛇行しながらやや方向を北に振り北より東に 35°～45° 南西端で前方後方形周溝墓 110SD に切られる延長 24.04 m の 1 条の溝跡からなるようである。堆積土に明確な差はないため、同じような堆積環境で堆積したほぼ同時期の溝跡群と考えられる。規模は、南西側の比較的把握しやすい溝では、幅 0.6～1.2 m、深さ 0.04～0.3 m、深い皿状を呈する。全体では延長が最長 24.04 m、最大幅 4.97 m、最深 0.48 m である。堆積層は 4-3 層のみで、砂礫の堆積が認められる。遺構の性格についてはよく分からないが、僅かな落差で南西に流そうとしていること、溝の形状が深い皿状で溝底が平であること等から、人工の溝跡と考えられる。また等高線間隔からも明らかなように、この溝跡よりも高い南東側の斜面は約 7% であるのに対し、低い北西側の斜面が約 13% と倍近いものであることは、この溝が傾斜変換点に設けられたことを示すものである。しかし、溝跡よりも高い南東側の斜面であっても、この斜度で水



西側古墓群 A 地区 包含器 (972・973)、0025X (974)、0785X (975)、0055D (990)、1055X (991・992)、0075D (993・995)、素器品 (970・971)

第 5-5 图 A 地区遺物実測図

田を作るのはかなり困難が予想され、さらに北西では斜度ばかりでなく日当たりの問題も発生することとなるが、水田や畑作耕作に伴うものである可能性が高い。

4-3層より、弥生時代中期の壺片が1点出土している。

遺構の時期は、土層などから弥生時代中期後葉・長床様式に堆積時期の一端があると考えられる。

104SD

溝104SDは、B4・B5グリットの110SZ前方部上を、北より東に63°で北東から南西に切る溝跡である。延長4.34m、最大幅0.88m、最深0.24mである。堆積層が3-4層であることから、中世に遡る遺構であるかもしれない。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

B. 土坑

009SK

土坑009SKは、C4グリットの第1次発掘調査において調査された集石墓SZ-18の痕跡で、今回の調査では唯一中世に遡る遺構である。平面は長方形状で、断面は鉢状の土坑である。遺構上に植栽土坑074SKが西側を壊すが、長辺は1.9m、短辺0.46m、最深0.2mを測る。堆積層は第1次発掘調査時の残存する埋土層で、3-3層の多量の炭化物混じりのブロック層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、第1次発掘調査時には盗掘により遺物が出土しておらず時期は判明していないが、周辺の同様な遺構と同じであれば室町時代の遺構とみられる。

015SK

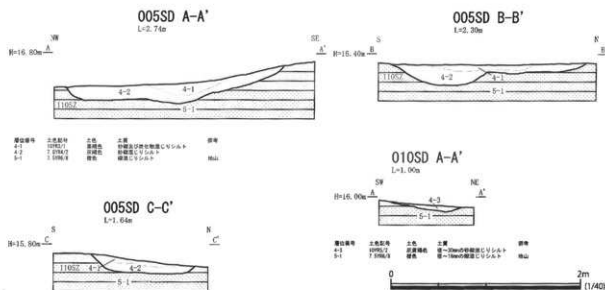
土坑015SKは、B5グリットの110SZの前方部と後方部の境にある土坑で、第1次発掘調査時の試掘トレンチ002SXによって南西側を切られ、断面図が報告されている。これによると当時の表土層直下より切っており、古い時期の遺構とは考えられない。長さ0.86m、最大幅1.04m、最深0.27m、断面皿状で平面楕円形の土坑である。堆積層は3-2層であり、植栽土坑と思われる。

遺物は、弥生時代中期の壺991・992が出土している。

遺構の時期は、堆積層から近現代と考えられる。

植栽土坑

植栽土坑55基(012～016SK・018SK・020SK・026～030SK・032～037SK・039SK・040SK・043SK～052SK・056SK・057SK・059SK・060SK・067～070SK・078～080SK・085SK・086SK・090SK・092SK・095SK・096SK・099SK・100SK・104SK・108SK・111～114SK)は、その多くが樹木を植えて抜き取った痕跡で、最大一辺が1.5m余りの底の平らな円形や楕円形の残存深0.1～0.4mの植栽土坑である。多くは012SK・013SK・015SK・018SKの列のように、2m間隔ぐらいて北東-南西方向の等高線に沿った位置に高中木が植栽されていたものと思われる。堆積層は、3-2層である。



第5-6図 A地区遺構断面図

杭穴・支柱穴

杭穴・支柱穴 45 個 (010P・011P・015P・017P・021～025P・031P・038P・041P・042P・053P～055P・058P・061～066P・071～073P・075P・076P・081P・082P・084P・087～091P・093P・094P・097P・098P・101～103P・106P・107P・109P・115P) は、直径 0.1～0.5 m の円形又は楕円形で、深さ 0.1～0.6 m、植栽樹木を支える支柱や杭の跡に、低木の植栽土坑や廃棄土坑に含まれるものとみられる。何れも植栽土坑と同じ北東～南西方向に、間隔は不揃いであるが並ぶ。堆積層は、3-2 層である。

植栽土坑や杭穴・支柱穴等は、共に近代・現代の第 1 次発掘調査前までの調査地の土地利用状況を示す遺構と考えられる。

077SX・083SX

077SX も 083SX もどちらも C4 グリットの、平面形状が溝状を呈する落ち込み遺構である。077SX は、幅 0.14～0.18 m、長さ 1.84 m 以上、最深 0.18 m の急激に落ち込む遺構で、堆積層は 3-3 層のみである。083SX は、最大幅 0.13 m、長さ 0.82 m、最深 0.16 m の急激に落ち込む遺構で、堆積層は 3-3 層である。どちらも溝状の物を打ち込んだ痕跡と考えられる。

遺構の時期は明らかでないが、堆積層から中世に遡る可能性がある。

C. 前方後方形周溝墓

110SZ (第5-7図A地区前方後方形周溝墓 110SZ 推定復元図)

前方後方形周溝墓 110SZ は、B4・B5・C4・C5 グリットにあって、南西側のかんりの部分が破壊されているが、墳丘墓である。ここでは残存状態や、他の周溝墓との関係から前方後方形周溝墓として呼称する。墳丘上や周溝層には攪乱と共に現代の植栽土坑 (070SK・105SK・111SK・114SK) や杭穴 (103P・109P・017P・038P・115P)、前方部を横切る溝 104SD 等があり、その形状を不明確にしている。主軸方位は、北より東に約 128° で、前方部を北西の低い方に、後方部を南東の高い方に向ける。現存する墳丘の落差は、前方部北西端の溝端と後方部南東端の墳丘端では、約 1.5 m の落差がみられる。盛土は、既に削平されていて残存していない。墳丘の形状は、周溝が後方部端を全周しない赤塚分類 B2 型で、前方部と後方部の取り付け部の形状も、方形の後方部から台形の前方が明確な角度をもって開かず、緩やかな曲線をもって開くなどの特徴が見られる。さらに、前方部先端が斜面のため削平されていることは、前方部周溝端の残存状況からも十分に考えられ、前方部先端が後どれくらいの高さを残していたかは明らかでない。現状での規模は、前方部の最も狭い屈曲部に残存する南西の溝 004SD から復元すると、第5-7図A地区前方後方形周溝墓 110SZ 推定復元図のようになる。後方部は正方形ではなくやや後方部側が狭い逆台形と見ることができ、隅の部分はやや丸くなっている。前方部と後方部の境は不明瞭で、なだらかに前方部に移行する。前方部は、狭間部の長さの約倍の長さで、大きくハ字形に開いて、一般的な前方後方墳の形状とは異なっている。

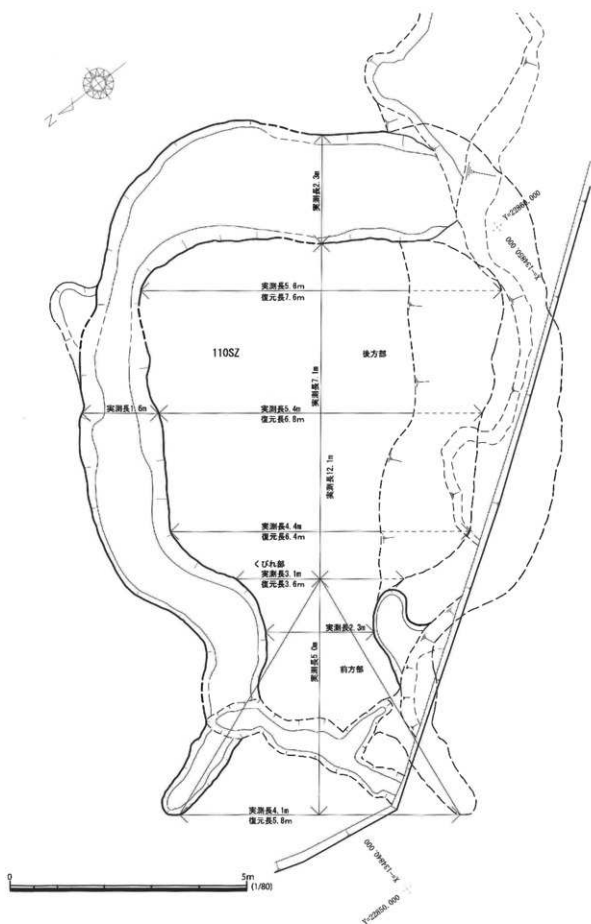
残存する各部の実測長(復元長)は、全長は 12.1 m、全幅は後方部中央で 5.4 m 以上 (6.8 m)、前方部最大幅 4.1 m 以上 (5.8 m)、前方部最小幅 2.3 m、前方部長は不明確ではあるが凡そ 5.0 m、後方部最大幅 5.6 m 以上 (7.6 m)、後方部最小幅 4.4 m 以上 (6.4 m)、後方部長も不明確であるが凡そ 7.1 m である。

周溝 004SD・005SD の断面形状と傾斜角度は、第5-6図A地区遺構断面図に図示した 005SD の A-A'・B-B'・C-C' の断面からも明らかのように、底の平らな皿状で、後方部では周溝外側の傾斜が $35^\circ \sim 50^\circ$ であるのに対し、墳丘側の傾斜が $31^\circ \sim 45^\circ$ と僅かではあるが立ち上がりが大い。

周溝の幅と深さは、後方部南東溝が最も広く最大幅 2.5 m、最深 0.45 m、後方部はもともと逆台形であるため後方部北東隅溝が最小幅 0.9 m、最深 0.32 m、前方部北東溝は最大幅 1.8 m で、最深 0.18 m である。前方部最小幅で幅 1.3 m、最深 0.04 m となっている。後方部南東側と前方部の溝底落差は、約 1.46 m で、墳丘落差とほぼ等しい。周溝 004SD・005SD を含めた復元長は、全長が 14.4 m で、全幅は 10.0 m、前方部最小幅は 4.9 m、前方部最大幅は 6.6 m に復元される。

周溝の堆積層は 2 層で、上層が 4-1 層、下層が 4-2 層である。堆積層は、墳丘側からの堆積傾斜が顕著であり、盛土の存在が間接的に確認できる。

唯一の出土遺物である土師器壺 990 は、後方部 A-A' 断面に接する南西の上層 4-1 層において、比較的饒まった範囲より出土したが接合しない遺物で、溝底から浮いており祭祀に伴う供献土器ではあるが当初の埋葬に伴う供献土器かどうかは明らかでない。990 は短く外傾する素口縁の広口壺で、外面の胴部上半には櫛描波状文が僅かに残る。この時期の広口壺には垂下する口縁をもつもの、短く上



第5-7図 A地区前方後方形周溝墓110SZ推定復元図

方へ屈曲するものと、この素口縁のものがある。素口縁広口壺は欠山式（廻間Ⅰ式）期によくある口唇部への刺突はみられないが、胴部上半の波状文や直線文も元屋敷新式（廻間Ⅲ式）期の段階まで残るようであり、口縁部が短いなどの退化傾向を含めても、古墳時代前期の元屋敷新式前半（廻間Ⅲ式Ⅰ・Ⅱ）の範疇であると考えられる。

なお、後方部墳丘上において、第1次発掘調査時の塚墓SZ-1に配された十時トレンチの内の南西を除く試掘トレンチ跡3本（001～003SX）を確認した。第1次発掘調査時においては、110SZ上に僅かに盛土が残存していたが、主体部は発見されなかった。周溝については、試掘トレンチの001SXにて、110SZ後方部東側の周溝の一部が検出され、今回と同一個体とみられる土師器の壺990が暗黄色土層から出土している。

今回発見された110SZは、南側が既に削平されているため、A地区に同時期の周溝墓が存在していたかは明らかにできなかった。しかし、B地区には弥生時代中期後葉の方形周溝墓670SZと方形周溝墓状遺構682SZがあり、後続する周溝墓群が存在していた可能性は残されている。

4. B地区

B地区は、南西下がりの緩やかな傾斜地で、西側が傘呂用水によって崖となっており、東側は住宅や畑地となっている。調査地の標高は、北東際が19.5m、南西の私道際が18.6mである。調査地は近年まで宅地であったが、数年前に解体され更地となっていた。

1) 基本層序

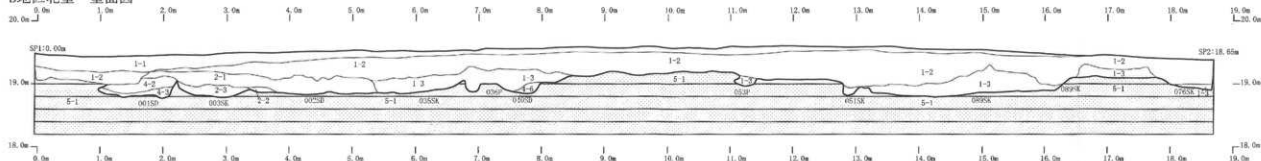
基本層序は、1層が現代の表土層・攪乱層と近代・現代の遺構堆積層、2・3・4-1～4-7層が主に近世以前の遺構堆積層、4-8・9層が弥生時代の遺構埋土層、5層が地山層である。攪乱を受けていた西壁面と削平を受けていた南壁面を除いた第5-9図B地区壁面図と、第5-8図B地区遺構断面図により観察した。

- ・1-1層は、灰白色(10Y7/1)で、 ϕ ～100mmの砂礫層。上部に碎石の整地層を載せる攪乱層。
- ・1-2層は、灰褐色(7.5YR4/2)で、シルト質砂質土層。
- ・1-3層は、にぶい黄橙色(10YR6/3)で、有機物混じりの粗砂質シルト層。
- ・1-4層は、明黄褐色(10YR6/8)で、シルトブロックを混じえる粗砂質シルト層。
- ・1-5層は、黄褐色(2.5Y5/3)で、 ϕ ～100mmの砂礫混じりシルト質粗砂層。
- ・1-6層は、灰黄色(2.5Y6/2)で、 ϕ ～50mmの砂礫混じりシルト層。水道管理設溝埋土層。
- ・2-1層は、暗褐色(10YR3/3)で、有機物・炭化物及び黄褐色土を混じえる粗砂質シルト層。
- ・2-2層は、黒褐色(10YR3/2)で、5層と2-1層のブロックを混じえる粗砂質シルト層。
- ・2-3層は、にぶい褐色(7.5YR5/3)で、僅かに5層のブロックを混じえるシルト層。
- ・3-1層は、褐灰色(10YR6/1)で、粗砂質シルト層。
- ・4-1層は、灰黄褐色(10YR4/2)で、粗砂を混じえるシルト層。
- ・4-2層は、黒褐色(7.5YR3/2)で、 ϕ ～60mmの砂礫及び炭化物混じりの粗砂質シルト～シルト層。
- ・4-3層は、褐色(7.5YR4/3)で、 ϕ ～70mmの砂礫混じりシルト層。
- ・4-4層は、にぶい褐色(7.5YR6/3)で、砂礫を僅かに含むシルト層。
- ・4-5層は、褐灰色(10YR5/1)で、 ϕ ～50mmの砂礫混じりのシルト質粗砂層。
- ・4-6層は、にぶい橙色(7.5Y5/3)で、シルト層。
- ・4-7層は、黒褐色(10Y3/2)で、砂礫混じりシルト層。
- ・4-8層は、褐灰色(7.5YR4/1)で、炭化物混じり砂質シルト層。
- ・4-9層は、灰褐色(7.5YR5/2)で、砂礫混じりシルト層。
- ・5-1層は、黄色(2.5Y8/8)で、 ϕ ～50mmの砂礫混じりシルト層。土石流起源の地山層。

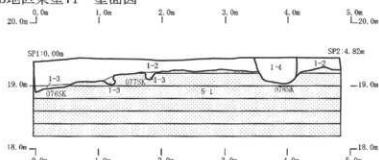
2) B地区の遺構と遺物

B地区の遺構は、既に建物の解体時に北側の壁面際と中央部を東壁際からL字状に、南側の全てに大きく攪乱を受けており、全て5-1層上面で検出した。検出した遺構は、第5-10図B地区平面図の掘立柱式建物10棟(664SB・665SB・668SB・669SB・671SB・673SB・676SB・677SB・680SB・681SB)、溝1

B地区北壁 壁面図

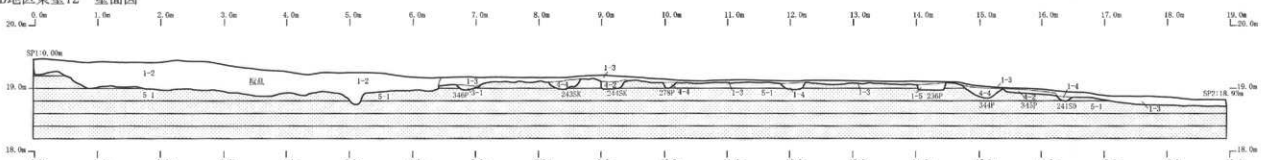


B地区東壁T1 壁面図

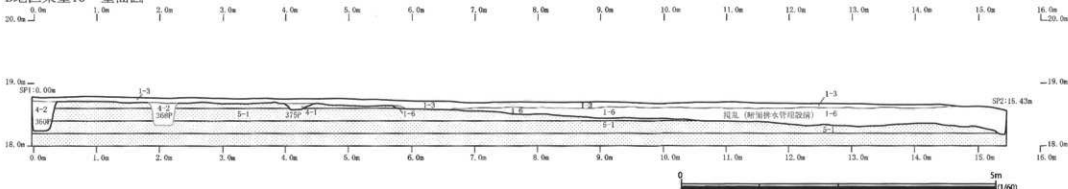


厚さ番号	土色記号	土色	土質	備考
1-1	107/1	灰白色	砂礫	備考
1-2	7.5194/2	灰褐色	シルト質砂質土	灰土、砂石
1-3	1078/2	にぶい黄褐色	有機物混じりの細砂質シルト	
1-4	1078/8	黄褐色	シルト・ブロックを混じえる細砂質シルト	
1-5	2.519/2	灰黄色	径~103mmの礫混じりシルト質砂	
1-6	2.519/2	灰黄色	径~50mmの礫混じりシルト	水道管埋設溝土
2-1	1092/2	黄褐色	有機物・炭化物及び黄褐色土を混じえる細砂質シルト	
2-2	1092/2	黄褐色	1層より上のブロックを混じえる細砂質シルト	
2-3	7.5195/2	にぶい褐色	径~10mmの礫混じりシルト	
3-1	1078/1	灰黄色	細砂質シルト	
4-1	1078/2	灰黄色	細砂質シルト	
4-2	7.5195/2	黄褐色	径~50mmの礫及び炭化物混じりの細砂質シルト	
4-3	7.5194/2	褐色	径~10mmの礫混じりシルト	
4-4	7.5195/2	にぶい褐色	礫を混じえるシルト	
4-5	1078/1	灰黄色	径~50mmの礫混じりシルト質砂	
4-6	7.5195/2	にぶい褐色	シルト	
4-7	1092/2	黄褐色	砂礫混じりシルト	
4-8	7.5194/1	灰黄色	炭化物混じり砂質シルト	
4-9	7.5195/2	灰黄色	礫混じりシルト	
5-1	2.519/8	黄色	径~50mmの礫混じりシルト	地山

B地区東壁T2 壁面図



B地区東壁T3 壁面図

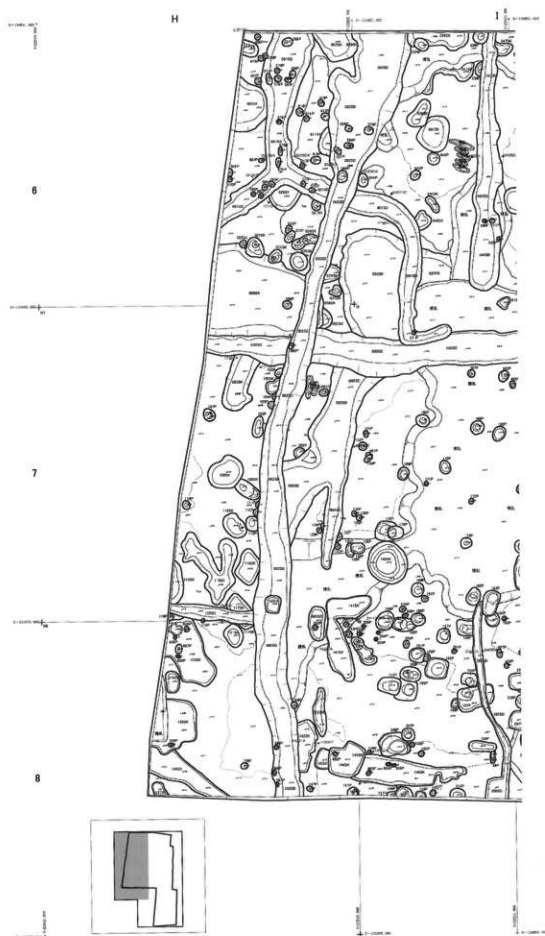


第 5-9 図 B地区壁面図

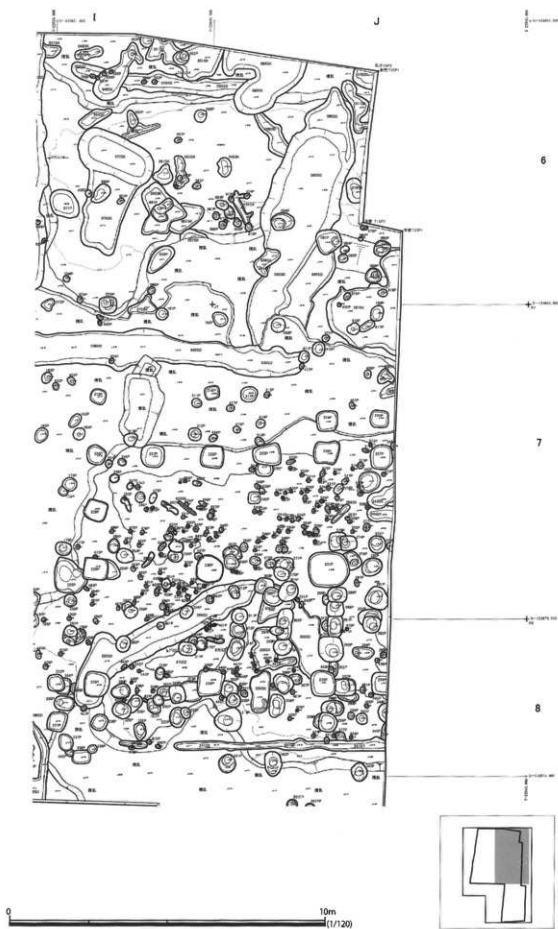




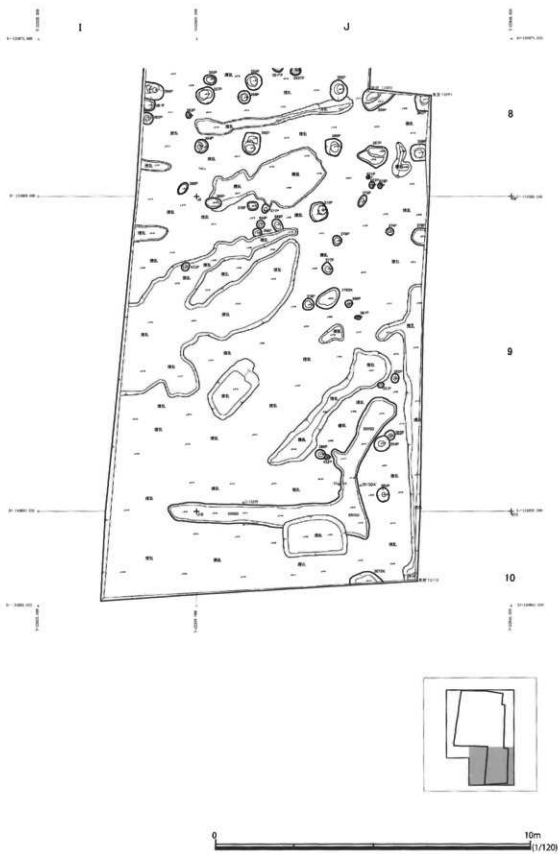
第5-10圖 B地区平面図1



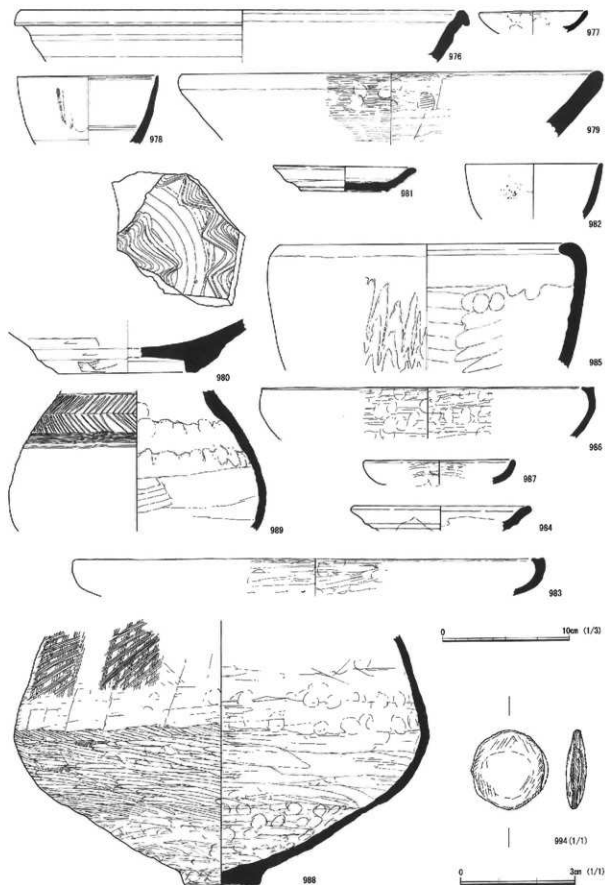
第5-10 図 B地区平面図2



第5-10图 B地区平面図3



第5-10 圖 B地区平面図4



西側古墓群 B 地区 001SD (976・989)、002SD (977)、060SD (978・979・980)、176P (981)、239P (982)、301P (983・984)、384P (985)、390P (986)、390SD (987)、146SK (988)、286P (994)

第 5-11 图 B 地区遺物実測図

4条、方形周溝墓1基(670SZ)、方形周溝墓状遺構1基(682SZ)、土坑48基、植栽土坑1基(140SK)、攪乱土坑25基等がある。出土遺物については、第5-11図B地区遺物実測図の遺物が出土した。

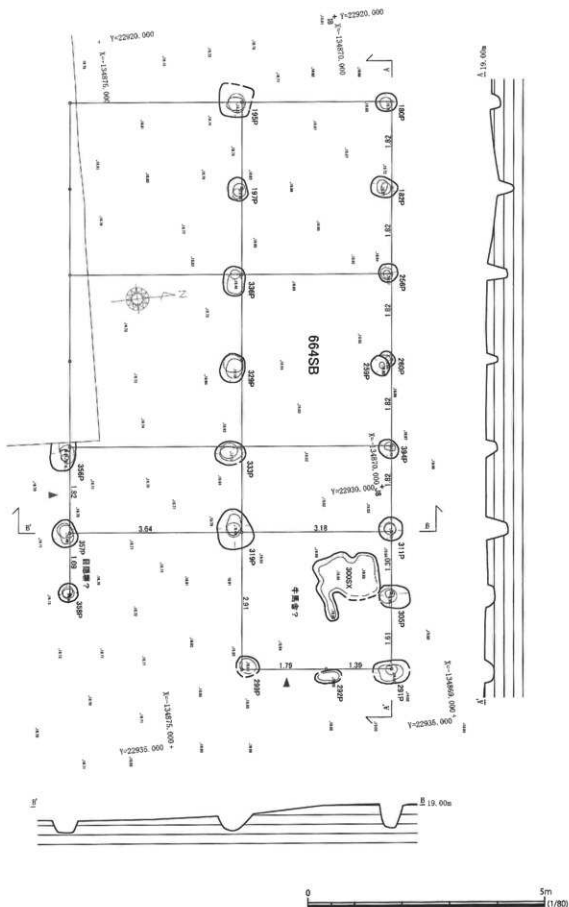
B. 掘立柱式建物

664SB(第5-12図B地区664SB遺構図)

掘立柱式建物664SBは、17・18・J7・J8グリットにあって、南側桁行柱列の西側4穴を調査区外とする桁行5間×梁間2間の東西棟、直屋建の前広間三間取型建物で、この東妻の北側梁間に2間四方の牛馬舎かと思われるものを付設する。B地区で最も古い時期の中型建物である。主軸方位は、北より東に約96°(北より西に84°)である。規模は、桁行が5間9.1m(西1.82m+1.82m+1.82m+1.82m+1.82m東)で、1.82m(6尺)の等間としている。なお、桁行3列目東側より3本目の260Pには、腐朽したためか添え柱259Pが南側に付加されている。梁間は2間6.82m(南3.64m+3.18m北)で、南側梁間1間幅と桁行1間幅は同寸である。桁行1列目の東隅柱357Pの1.09m東延長上には小柱穴358Pがあり、目隠堀もしくは便所、風呂等の何らかの小規模な構造物が妻側にあったものと推定される。母屋の建坪は、62.06㎡(18.8坪)と復元される。

柱穴掘方の平面形と大きさは、直径0.4m余りの円形か、長辺0.6m×短辺0.4m余りの楕円形が主で、桁行2列目大棟の西端柱穴195P掘方が0.72m×0.75m、同じく東端柱穴319P掘方が0.86m×0.73mとこの2柱穴は他よりも大きい。柱穴掘方の深さは、地山の硬さや柱材の長さによって多少異なるであろうが、桁行第3列目隅柱が標高18.55m前後に、桁行第2列目が標高18.48m前後にあり、桁行第1列目も2柱穴であるが標高18.48m前後にあるようである。このため、現在の遺構面5-1層上面からの残存深は、深いもので0.55m、浅いもので0.18m、断面形状は逆台形か鉢形を呈する。埋土は、4-2層で大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から直径0.2～0.3m余りの丸柱を中心に、直径0.35m余りの丸柱も大棟に用いている。遺存する掘立柱式民家例では埋設する部分に丸柱を用いるものがあり、これらの例では丸柱が上部で角柱に加工されていることから、本例もその可能性が高いものとみられる。なお、今回検出された礎石建式建物681SBと小規模な掘立柱式建物である676SB・680SBを除く他の掘立柱式建物の上部は、柱間装置の導入により角柱に加工されていたものと考えている。

牛馬舎かと思われるものは、母屋東妻の北側梁間に主軸方位を同じくして連なる1間四方(桁行2.91m×梁間3.18m)の東西棟建物の付属屋で、北側と東側には間柱が建つが南側と西側には建たない。北側の間柱305P(西1.30m+1.61m東)はしっかりしているが、東側の間柱292P(南1.79m+1.39m北)は他の新しい時期の柱穴に切られやや不明確ではあるが、軸線より柱分外側に出ている。このことから、北側は土壁構造、南側は高窓をもつ板壁か、東側には引き戸、片流れ屋根の存在が推測される。平面配置は、北側の土坑300SXと南側前面平場の土間からなる。開口部は、恐らく東側で、母屋側にも開いていた可能性が高い。この付属屋を牛馬舎と考えた理由には、付属屋北側奥部にある土坑300SXの存在がある。土坑300SXの残存規模は、東西長1.4m以上×南北幅1.4mの方形で、4-3層で埋まる深さ0.03～0.15mの西側傾斜の窪みである。当初はこの付属屋の大きさからみて、長さ約2.1m×幅1.4m程度に復元される。この土坑300SXは、民俗例や発掘調査例からみて、牛馬の糞



尿を溜めた掘り込み遺構と考えられ、この上に敷き藁がひかれて、そこからできる踏み肥（厩堆肥）を堆肥としていたものである。牛馬舎の建坪は、9.25 ㎡（2.8 坪）である。

柱穴掘方の平面形と大きさは、直径 0.4 m 余りの円形か、最大の長辺 0.8 m × 短辺 0.5 m 余りの楕円形で母屋と大きく変わらない。柱穴掘方の深さは、北東隅 291P が標高 18.85 m に、南東隅 299P が標高 18.89 m にあり、現在の遺構面 5-1 層上面からの残存深は、深いもので 0.17 m、浅いもので 0.06 m と浅く、断面形状は鉢形を呈する。埋土は、4-2 層で母屋と大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から直径 0.2 ～ 0.3 m 余りの丸柱である。母屋と比較した場合、主軸方位、柱規模、掘方の形状等は同じであり母屋と同時期に作られた可能性が高いが、上部構造の違いから母屋に比べて掘方の深さが極端に浅いのが特徴といえる。

掘立柱式建物 664SB の屋内利用は、前広間三間取型とすると桁行 1 列目東端の間口 1 間が入口部分（玄関）で、玄関を入った間と奥の二間が土間、奥が床張りと考えられる。土間は、入口側が 6.62 ㎡（4 畳）のニワ（作業場兼農具置場等）、奥が 5.79 ㎡（3.5 畳程度）のダイドコ（台所）で、ダイドコに接して 9.2 ㎡（5.5 畳程度）のマヤ（牛馬舎）が母屋内ではなく付設されていた。床張りとした部分は、南側のオデイ（座敷）・オウエ（次の間）を一間とするオウエ（広間）各 26.5 ㎡（16 畳）とし、北側の二間であるナンド（寝室）とダイドコ（居間）を各 11.58 ㎡（7 畳程度）としている。押入・床（押板）・仏壇等の設けは地面に痕跡を留めない構造であったとみられ、竈についても削平されたためか痕跡を残さない。

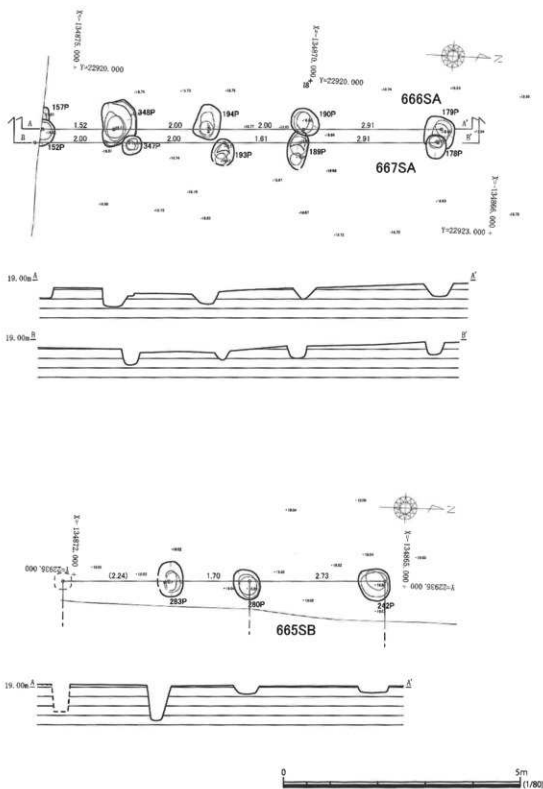
他の遺構との切り合い関係は、桁行 2 列目西端 195P が 674SA の 194P と 675SA の 193P に、桁行 3 列目東端 311P が 673SB の 313P に切られる。牛馬舎は、北間柱 305P が 673SB の 397P に、同じく北東隅柱 291P が 669SB の 290P と 671SB の 288P に、東間柱 292P が 681SB の 235P と 669SB の 290P に、南東隅柱 299P が 681SB の 239P に切られる。

柱穴並びに掘方、土坑 300SX からの遺物の出土はない。

遺構の時期は、直接遺構に係わる遺物がないが、包含層出土土器の内で、古墳が営まれていた時代（12 世紀末～15 世紀）の遺物を除く最も古い一群である瀬戸美濃産の大窯 4 期末の丸皿・登窯第 2 小期の黄瀬戸鉢、土師器の罌の短い羽釜などの存在から、17 世紀前葉以降と考えられる。

665SB（第 5-13 図 B 地区 665SB・666SA・667SA 遺構図）

掘立柱式建物 665SB は、J7・J8 グリットの東壁際にあつて、掘立柱式建物とするのもやや問題があるかもしれないもので、西側梁間の 3 柱穴のみを残しその多くを東壁内とする。西側梁間の南西隅柱を 681SB の 236P に續かれていて梁行きも 2 間以上とはっきりしないが、推定桁行 5 間 × 推定梁間 3 間又は 4 間の東西棟建物と考えている。主軸方位は、北より東に 88°（北より西に約 92°）である。規模は、桁行が不明であるが、先行遺構や後続する建物遺構から梁間は 3 間で推定 6.67 m（南 X(2.24) m + 1.7 m + 2.73 m 北）とみられる。



第5-13图 B地区665SB・666SA・667SA遺構図

柱穴並びに掘方、土坑 300SX からの遺物の出土はない。

遺構の時期は、直接遺構に係わる遺物がないが、包含層出土土器の内で、古墓の時代（12 世紀末～15 世紀）の遺物を除く最も古い一群である瀬戸美濃産の大窯 4 期末の丸皿・連房式登窯第 2 小期の黄瀬戸鉢、土師器の鐏の短い羽釜などの存在から、17 世紀前葉以降と考えられる。

665SB（第 5-13 図 B 地区 665SB・666SA・667SA 遺構図）

掘立柱式建物 665SB は、J7・J8 グリットの東壁際にあつて、掘立柱式建物とするのもやや問題があるかもしれないもので、西側梁間の 3 柱穴のみを残しその多くを東壁内とする。西側梁間の南西隅柱を 681SB の 236P に壊されていて梁行きも 2 間以上とはっきりしないが、推定桁行 5 間×推定梁間 3 間又は 4 間の東西棟建物と考えている。主軸方位は、北より東に 88°（北より西に約 92°）である。規模は、桁行が不明であるが、先行遺構や後続する建物遺構から梁間は 3 間で推定 6.67 m（南 X(2.24) m + 1.7 m + 2.73 m 北）とみられる。

柱穴掘方の平面形と大きさは、長辺 0.6～0.75 m×短辺 0.55～0.65 m 余りの楕円形が主である。柱穴掘方の深さは 242P と 280P が約 0.15 m の標高 18.90 m 前後に、283P が約 0.3 m の標高 18.75 m 前後にある。断面形状は逆台形か鉢形を呈する。埋土は、4-2 層で大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から直径 0.35～0.4 m 余りの丸柱である。

掘立柱式建物 665SB の屋内利用は、南側のオデイ（座敷）梁間を 13 尺とし 8 畳程度、北側のナンド（寝室）梁間を 9 尺として 6 畳程度の間取りが予想される。

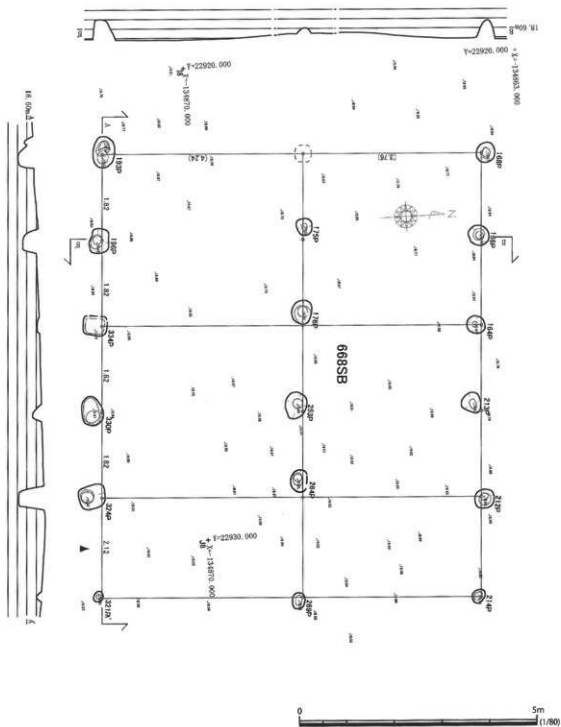
他の遺構との切り合い関係は、283P が 671SB の 282P に切られる。

遺物が出土していないため、遺構の時期は明らかでない。

668SB（第 5-14 図 B 地区 668SB 遺構図）

掘立柱式建物 668SB は、I7・I8・J7・J8 グリットにあつて、桁行 2 列目西端の柱穴跡が見出せないが、桁行 4 間×梁間 2 間の東側に梁間 1 間の片流れ屋根を付ける、東西棟の直屋建底付前広間三間取建物と考えている。主軸方位は、北より東に約 93°（北より西に 87°）である。規模は、桁行が 4 間 7.28 m（西 1.82 m + 1.82 m + 1.82 m + 1.82 m 東）の 1.82 m（6 尺）の等間 4 間に、東側底 2.12 m（7 尺）の土間 1 間を設ける。梁間は 2 間 8 m（南 4.24 m + 3.76 m 北）である。梁間東端の 321P・269P・214P は、径 0.2 m 余りの小柱穴であるばかりか、掘方の深さも 0.1 m 以内と浅く、庇構造の土間と考えた。建坪は、75.2 m²（22.8 坪）である。

柱穴掘方の平面形と大きさは、直径 0.4 m 余りの円形か、長辺 0.55～0.65 m×短辺 0.4～0.5 m 余りの楕円形か隅丸方形が主で、桁行 1 列目に大きな柱穴掘方が見られる。梁間東 1 列目の柱穴掘方は、長辺 0.25～0.35 m×短辺 0.2～0.38 m 余りの楕円形で、深さは 0.1 m 余りである。柱穴掘方の深さは、桁行第 3 列目が標高 18.63 m 前後に、桁行第 2 列目が標高 18.55 m 前後にあり、桁行第 1 列目も標高 18.43 m 前後にあるようである。このため、現在の凹凸のある遺構面 5-1 層上面からの残存深は、深いもので 0.76 m、浅いもので 0.1 m、断面形状は逆台形か鉢形を呈する。埋土は、4-1 層で大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から直径 0.2



第5-14图 B地区668SB遺構図

～0.3 m 余りの丸柱を中心に用いている。想定軸線柱より柱分外側にずれている柱穴掘方は、175P・176P・213P・253P・264P・269P・321P・330P など全体の 35% にものぼる。

掘立柱式建物 668SB の屋内利用は、今回の調査内容と民俗例等からみると、東側此部分の南側開口 1 間が入り部分（玄関）で、玄関を入った間とその奥の二間が土間、奥が床張りと考えられる。土間は、入口側が 8.99 m²（6 畳）のニワ（作業場兼農具置場等）、奥が 7.97 m²（5.3 畳程度）のニワ（台所・食料庫等）である。床張りとした部分は、南側のオウエを間仕切り無し広間 30.87 m²（18.7 畳）とし、北側の奥のナンド（寝室）とダイドコ（居間）を各 13.69 m²（8 畳程度）としている。押入・床（押板）・仏壇等の設けは地面に痕跡を留めない構造であったとみられ、竈についても痕跡を残さない。

他の遺構との切り合い関係は、桁行 3 列目 214P が 681SB の 223P に、桁行 2 列目 264P が 675SA の 266P に、桁行 1 列目 334P が 681SB の 232P に切られる。

176P の柱穴抜き取り穴より、口縁の一部を欠く 18 世紀前葉の瀬戸美濃産志野丸皿 981 が出土している。

遺構の時期は、18 世紀前葉以前と考えられる。

669SB（第 5-15 図 B 地区 669SB 遺構図）

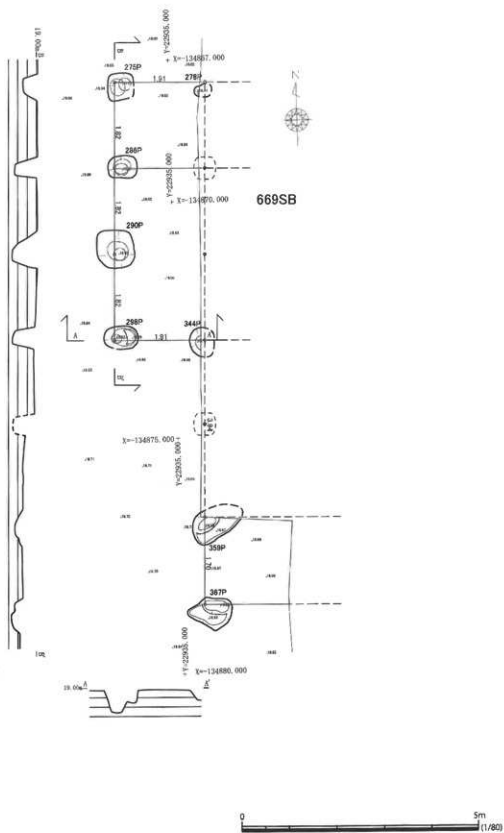
掘立柱式建物 669SB は、J7・J8 グリットの東壁際にあって、掘立柱式建物として全体が把握できないためやや問題があるもので、西側梁間ナンド（寝室）に付設する押入かナンドの拡張間で、北側の縁に繋がる 3 柱穴と南西隅柱穴と南側の縁の一部とみられる 2 柱穴を残しその多くを東壁内とする。北側梁間の北西隅柱を東壁内とし梁行きも 2 間以上とはっきりしないが、推定桁行 5 間×推定梁間 2 間の東西棟、直屋建と考えている。主軸方位は、北より東に 91°（北より西に 89°）である。規模は、桁行が不明であるが、梁間は 2 間で推定 7.58 m（南 3.94 m + X(3.64) m 北）とみられ、南側に庇縁 1 間（1.7 m）が、北側と西側の奥 1 間にも庇 1 間（1.82 m）が通るものとみられ、庇を加えた梁間側の総幅は 11.1 m となる。

柱穴掘方の平面形と大きさは、長辺 0.55～0.84 m×短辺 0.45～0.8 m 余りの楕円形か隅丸方形が主である。柱穴掘方の深さは 286P・290P・298P が約 0.5 m の標高 18.5 m 前後に、275P・359P が約 0.4 m の標高 18.6 m 前後にある。断面形状は逆台形か鉢形を呈する。埋土は、4-4 層で大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から直径 0.3～0.35 m 余りの丸柱である。

掘立柱式建物 669SB の屋内利用は、南側の座敷梁間を 13 尺とし 8 畳程度、北側のナンド（寝室）梁間を 12 尺として 6 畳程度の間取りが予想される。さらに座敷の南側には 1 間（1.7 m）幅の縁が、ナンド（寝室）の北側にも 1 間（1.82 m）の縁と西梁間側にも 1 間（1.82 m）の縁が取り付いている。他の遺構との切り合い関係は、298P が 681SB の 239P に、275P が 671SB の 274P に切られる。また、西北隅柱が 677SB の 281P に切られて調査区内では痕跡を残さない。

遺物は 286P の柱穴より、粘板岩製の黒の碁石 994 が出土している。

遺構の時期は、671SB に切られていること、668SB よりも新しいことから、18 世紀前葉以降と考えられる。



第5-15图 B地区669SB遺構図

671SB (第5-16 図B地区 671SB・672SA 遺構図)

掘立柱式建物 671SB は、J7・J8 グリットの東壁際にあつて、これも掘立柱式建物として全体が把握できないため問題があるもので、先行遺構や後続する建物から推定桁行4間×推定梁間2間の小規模な東西棟と考えている。主軸方位は、北より東に約97°（北より西に83°）である。規模は、桁行が不明であるが、梁間は2間で推定4.85m（南X(2.58)m+2.27m北）とみられる。建物構造は、西梁間の東側1間目(1.12m)の282Pの評価により分かるとみられ、単に直屋建形式の西梁間に押入等を設えたのか、鳥居建形式の土座式か床張式の通し柱（上屋柱）とするならば土座（床貼り）とニワの間仕切りの無い古い構造とも考えられる。後者と考えるならば、桁行4間×梁間2間に現存しない下屋柱までの寸法を加えた長さが各桁行と梁行き寸法となり、小規模な鳥居建の構造を想定できる。前者ならば、桁行4間×梁間2間の小規模な直屋建の広間に付設された押入を想定できる。

柱穴掘方の平面形と大きさは、長辺0.55～0.67m×短辺0.3～0.55m余りの楕円形か隅丸方形が主である。柱穴掘方の深さは274P・288Pが約0.4mの標高18.65m前後にある。断面形状は逆台形か鉢形を呈する。埋土は、4-2層で大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から直径0.24～0.35m余りの丸柱である。

掘立柱式建物 671SB の屋内利用は、直屋建床張式であれば西梁間に押入れを設えて広間に、東側をニワとする平面構造と予想され、鳥居建の土座式又は床張式では西側を土座又は床張広間とし、東側をニワとするものと予想される。

他の遺構との切り合い関係は、294Pが673SBの293Pに切られる。また、南西隅柱が681SBの235Pに切られ痕跡を残さない。

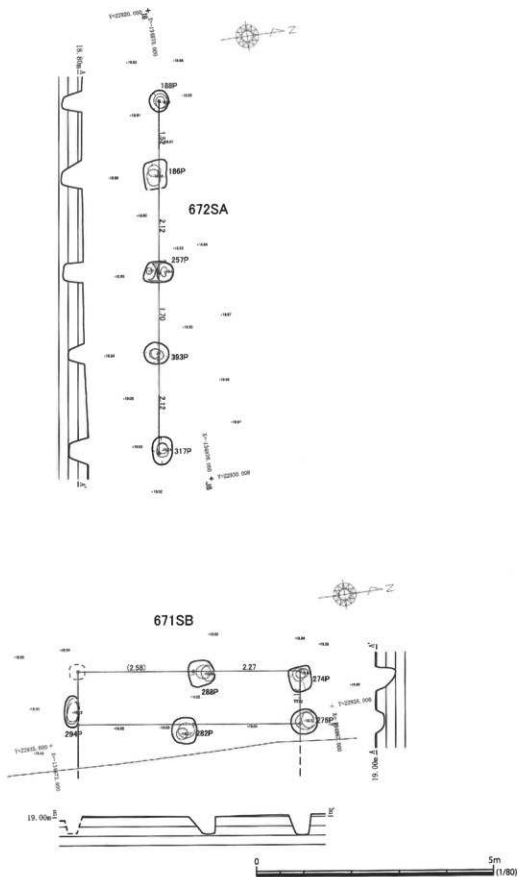
遺物は出土していない。

遺構から時期は明らかではないが、673SBに切られること、関連する001SD内の最終遺物から19世紀前葉以前と考えられる。

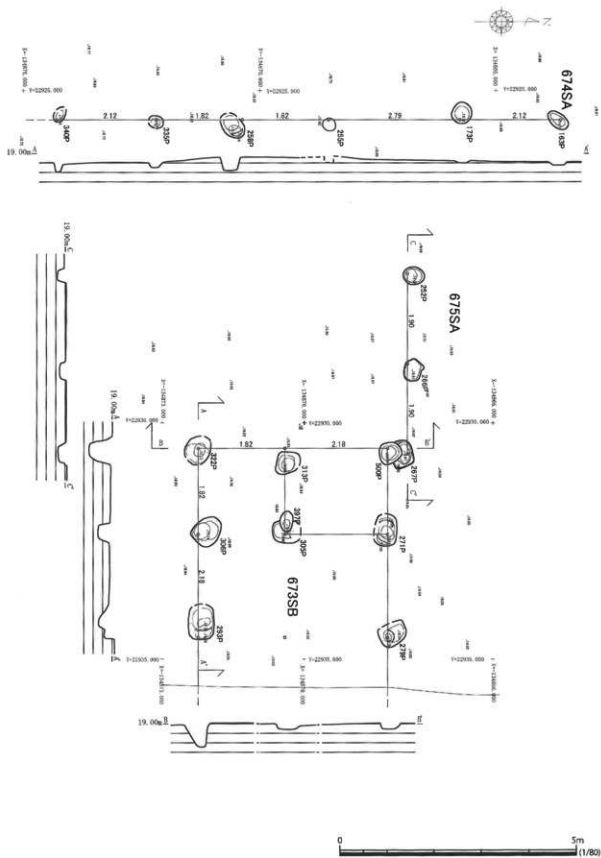
673SB (第5-17 図B地区 673SB・674SA・675SA 遺構図)

掘立柱式建物 673SB は、J7・J8 グリットの東壁際にあつて、これも掘立柱式建物として全体が把握できないため問題があるが、先行遺構や後続する建物から推定桁行4間×梁間2間の東西棟と考えている。主軸方位は、北より東に約89°（北より西に91°）である。規模は、桁行2間以上（西1.82m+2.18m+Xm東）が不明であるが、梁間は2間で4m（南1.82m+2.18m北）とみられる。西梁間の1間(1.82m)は、押入れや設えとするには広く、部屋とするにはやや狭い。ここではこれらを小規模な直屋建床張式建物と考え、北梁間隅の1間四方の間仕切りしたナンド(1.82m×2.18m)と、他を広間や土間と考えたい。

柱穴掘方の平面形と大きさは、長辺0.5～0.75m×短辺0.4～0.55m余りの楕円形か隅丸方形が主である。柱穴掘方の深さは322Pが約0.4mの標高18.55m前後と深い、他の柱穴は約0.15～0.1mの標高18.8～18.9m前後にある。断面形状は逆台形か鉢形を呈する。埋土は、4-3層で大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から直径0.28



第5-16图 B地区671SB・672SA遺構図



第5-17图 B地区673SB・674SA・675SA遺構図

～0.40 m余りの丸柱である。

掘立柱式建物 673SB の屋内利用は、西梁間北隅 1 間四方をナンドと考え、他を L 字状の広間と東壁内で確認できない土間と想定したい。

他の遺構との切り合い関係は、500P が 675SA の 267P を切り、279P が 681SB の 231P に、293P も 681SB の 235P に、322P も 681SB の 234P に、305P は 677SB の 395P に切られる。同時期の構と考えられる 675SA(構)は、673SB の 500P に 675SA 南端の 267P が切られており、やや先行する遺構である可能性もある。

遺物は出土していない。

遺構から時期は明らかではないが、関連する 030SD や 040SD 内出土の遺物から 19 世紀中葉以前と考えられる。

676SB (第 5-19 図 B 地区 676SB・679SA・680SB 遺構図)

掘立柱式建物 676SB は、I6 グリットの北壁際にあつて、これも掘立柱式建物として全体が把握できないため構の可能性もあるが、大部分が北壁内に入る梁間 2 間の南北棟の建物と考えている。主軸方位は、北より東に 179° (北より西に 1°) である。規模は、桁行が不明であるが、梁間は 2 間の 3.4 m (南 1.7 m + 1.7 m 北) で、柱穴径より小規模な建物の一部と見られる。

柱穴掘方の平面形と大きさは、052P を除き他の 2 柱穴が 048SK と 049SK に攪乱を受けているため不明確ではあるが、長辺 0.3～0.5 m × 短辺 0.2～0.45 m 余りの楕円形とみられる。柱穴掘方の深さは約 0.2 m の標高 18.8 m 前後と浅い。断面形状は逆台形か鉢形を呈する。埋土は、4-6 層で大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から直径 0.2 m 以下の丸柱である。

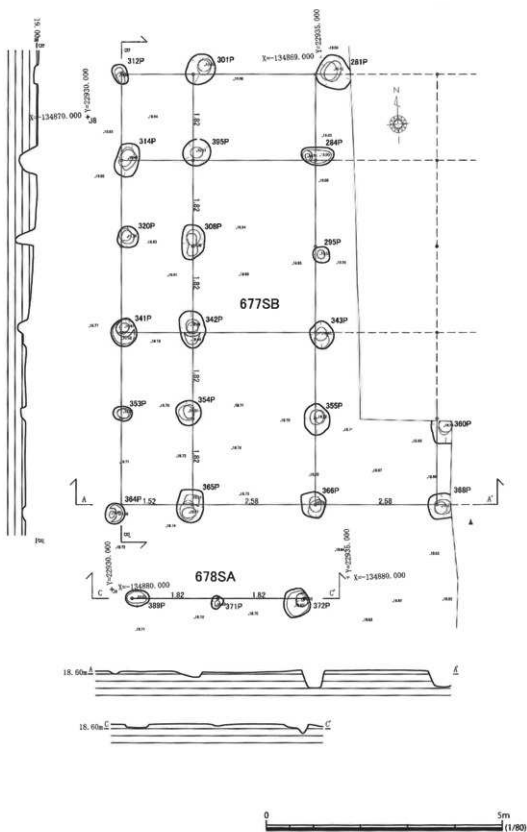
他の遺構との切り合い関係は、048SK と 049SK に切れ、上部を現代の攪乱により壊されている。

052P 柱穴内から、近世の平瓦と磁器碗等が出土している。

遺構の時期は、673SB と同じ主軸方位であることと、052P 柱穴内の遺物から 19 世紀中葉以前と考えられる。

677SB (第 5-18 図 B 地区 677SB・678SA 遺構図)

掘立柱式建物 677SB は、J7・J8 グリットにあつて、西側から梁間 4 柱列目の南側 2 柱穴より北側と梁間 5 柱列目を調査区外とするもので、母屋の推定桁行 3 間 × 梁間 4 間の北側と西側に 1 間の庇を付ける東西棟で、直屋建広間三間取建物と思われる。しかし、他に南北棟の桁行 5 間 × 梁間 2 間の西側に 1 間の庇を付ける南北棟で、直屋建前広間三間取建物である可能性もある。主軸方位は、北より東に 93° (北より西に 87°) である。規模は、桁行が 2 間以上 5.16 m 以上 (西 2.58 m + 2.58 m + X m 東) で、西側に 1 間 (1.52 m) 幅の庇を付ける。東西棟広間三間取型とすると、桁行は 3 間 7.74 m (西 2.58 m + 2.58 m + (2.58 m) 東) と推定される。梁間は 4 間 7.28 m (南 1.82 m + 1.82 m + 1.82 m + 1.82 m 北) で、北側に 1 間 (1.82 m) 幅の庇を付ける。母屋の建坪は、東西棟広間三間取型の桁行 3 間の等間 × 梁間 4 間の等間と推定すると 56.35 m² (17 坪) と復元され、西側の底部分と北側庇を単純に延



第5-18图 B地区677SB·678SA遺構図

長した面積を入れると総建坪は84.27㎡(25.5坪)と復元される。

柱穴掘方の平面形と大きさは、直径0.55m余りの円形か、長辺0.45～0.77m×短辺0.3～0.68m余りの楕円形である。柱穴掘方の深さは、標高18.2～18.5m前後にあるようである。このため、現在の遺構面からの残存深は0.1～0.6m、断面形状は逆台形か鉢形を呈する。埋土は、4・2層で大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から直径0.25～0.38m余りの丸柱を中心に用いている。

掘立柱建物677SBの屋内利用は、今回の建物を東西棟とした場合、東壁内に入る桁行1列目東端の間口1間が入り部分(玄関)で、一般的であれば玄関を入った間と奥の間が上間、奥が床張りと考えられる。床張りとした部分は、南側奥のオデイ(座敷)が9.39㎡(5.7畳)、ナンド(ナンド)が底を含めて14.01㎡(8.5畳)とオウエ(次の間)とダイドコ(居間)にあたる部分オウエ(広間)が18.78㎡(11.4畳)となる。押入れ・床(押板)・仏壇等の設えは、オデイの西側に5.53㎡(1.52m×3.64m)の床(押板)・仏壇等が、ナンドの西側に同規模の押入れが想定される。

他の遺構との切り合い関係は、395Pが673SBの305Pを、320Pが673SBの322Pを切る。

遺物は301Pの掘方より、土師器の埴輪983と、瀬戸美濃産登窯第7小期ぐらいの志野丸皿984が出土している。

遺構の時期は、301P掘方の遺物より19世紀中葉以前と考えられる。

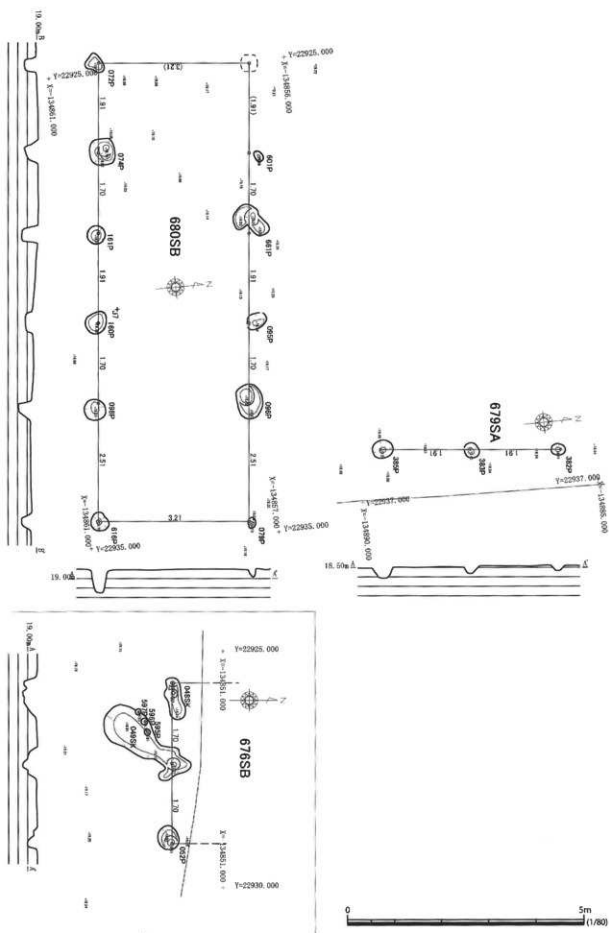
680SB(第5-19図B地区676SB・679SA・680SB遺構図)

掘立柱建物680SBは、I6・I7・J6・J7グリッドにあつて、北西隅柱1個を攪乱により欠くが、桁行5間×梁間1間の小規模で細長い東西棟建物と思われる。なお、680SBは東端が東壁内に入らないものとして想定したが、さらにのびる可能性も残る。主軸方位は、掘立柱建物677SBと同じ北より東に93°(北より西に87°)である。規模は、桁行5間の9.73m(西1.91m+1.7m+1.91m+1.7m+2.51m東)で、梁間は1間の3.21mである。母屋の建坪は31.2㎡(9.5坪程度)である。

柱穴掘方の平面形と大きさは、攪乱土坑や攪乱溝により大きく壊されており不明確ではあるが、長辺0.4～0.78m×短辺0.2～0.5m余りの楕円形とみられる。柱穴掘方の深さは、0.05～0.44mで、標高18.6～18.8m前後である。断面形状は逆台形か鉢形を呈する。埋土は、4・1層で大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から直径0.2m以下の丸柱である。

掘立柱建物680SBの屋内利用は、今回の建物を東西棟5間とした場合、梁間3.21mを1間として中間に柱が無く屋内空間を広くとっていること、柱穴の径が小さいこと、桁行の柱間が1.91m+1.7mの組み合わせが2組ある構造であること、西側には040SDが接近し南側にも030SDが接近していることから、構造的に妻側と角部の壁を土壁とした場合、北側の狭い1.7mの桁行2ヵ所に入口が付く納屋的なものか家畜小屋的なものが想定できないであろうか。

他の遺構との切り合い関係は、上部を060SX・070SX・071P・080SD・087SK等や現代攪乱に壊されている。遺物は出土していないが、030SDと040SDに規制された建物位置などから、19世紀中葉頃までの建物とみられる。



第5-19图 B地区676SB・679SA・680SB遺構図

B. 礎石建式建物

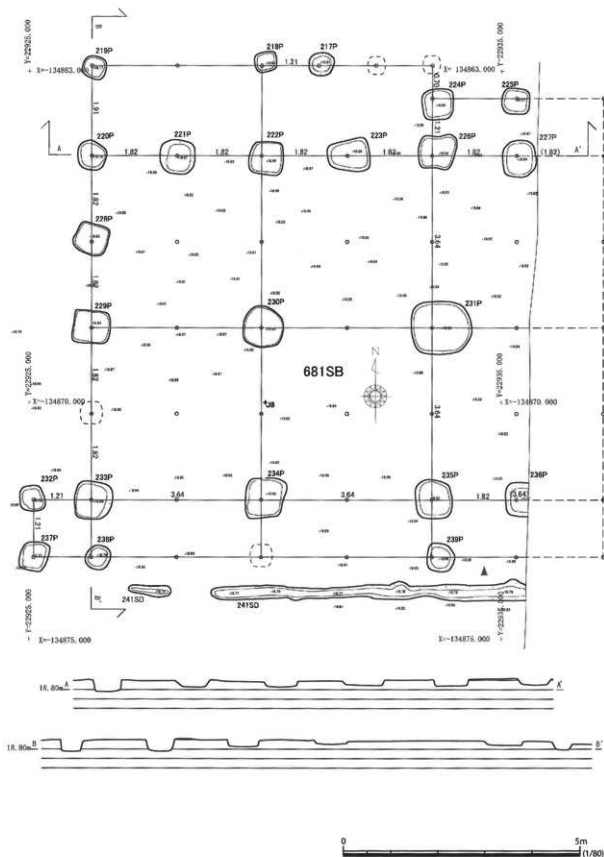
681SB (第5-20図B地区681SB遺構図)

礎石建式建物681SBは、17・18・J7・J8グリットにあって、東側梁間列を東壁の調査区外とするが、推定桁行3間×梁間2間の東西棟の直屋建整形四間取建物で、南側に1間幅の縁庇が、北側に1間幅の庇が、南側縁庇の西端に1.21m四方の押入れがある。今回の調査区では、唯一の礎石建の建物である。なお、母屋西側梁間の233Pと229Pの間、南側桁行縁の238Pと239Pの間、北側板間庇の217Pの東側2柱穴等がそれぞれ攪乱により消失していた。主軸方位は、北より東に90°（北より西に90°）である。母屋の規模は、推定桁行が3間10.92m（西3.64m+3.64m+（3.64m）東）で、3.64m（12尺）の等間としているようである。梁間は2間7.28m（南3.64m+3.64m北）で、梁間1間幅と桁行1間幅は同尺である。これに北側庇1.91mと南側縁庇1.21mを加えた南北幅は、10.4mである。母屋の建坪は、推定桁行3間×梁間2間とすると79.5㎡（24坪）と復元され、物入れを含み玄関入口の庇部分を除く総建坪は108㎡（32.75坪）と復元される。

柱穴掘方の平面形と大きさは、桁行2列目の東から2本目の大黒柱と考えられる231Pが最も大きく、長辺1.3m×短辺1.15m余りの隅丸方形、他の母屋柱は長辺0.5～0.9m×短辺0.6～0.8m余りの隅丸方形としている。柱穴掘方の深さは、大黒柱と考えられる231Pが現在の遺構面から約0.3mの標高18.7m前後に、他の隅柱等は現在の遺構面から0.1～0.2mの標高18.8m前後にある。この柱穴掘方内には、1-5層と径0.03～0.1mの円礫が充填されており、この上部に礎石を据えていたものとみられる。断面形状は、何れも側面が真っ直ぐに近い状態で落ちる逆台形を呈する。

桁行1列目のオデイ（座敷）とオウエ（次の間）の南側に取付く1間（1.21m）幅の縁庇は、ニワの間口3.64mの西側半間（1.82m）を玄関とし、幅1.21mの玄関庇が付く。さらに縁の中心から約0.75m（2.5尺）南に幅0.2～0.3m、深さ0.05m余りの雨落溝241SDが、玄関前からオデイ前まで残る。よって、軒の出は南側桁行中心から1.96mで軒先とみられる。南側縁庇の西端に1.21m四方の押入れがあるが、西側に庇が無いことから、他の縁掘方よりも大きな掘方と片流れの屋根が付いていたものと考えられる。床（押板）・仏壇等の設えは、痕跡がみられないことから、地面に痕跡を残さない構造の物であったと考えられる。北側には1間幅の庇がナンドとダイドコにあり、ナンド側は中間に柱も建たず広い掃き出しとし、ダイドコ側は1.21m毎に柱が建つことから、窓があったかもしれないが土壁としていたようである。奥のニワの北側は、ナンドとダイドコの庇幅（1.91m）より短い1.21mの出しかなく0.7m内側に下がり、南側桁行と同じ軒の出と仮定すると軒先までは約1.45mあったと推測され庇の長い勝手口であった可能性がある。

掘立柱式建物681SBの屋内利用は、今回の調査内容と民俗例等からみると桁行1列目東端の間口1間の西側半間が入口部分（玄関）で、玄関を入った間と奥の間が土間で北側には勝手口が、奥の四間が床張りと考えられ、南側に内縁が、北側の縁は板張りなどの部屋の拡張区とする。土間は、入口側が13.25㎡（8畳）のニワ（作業場兼農具置場等）と推測され、奥も庇により17.65㎡に（10.7畳）のニワ（食料水貯蔵・調理場等）と考えられる。床張りとした四間のうち南側二間は、オデイ（座敷）とオウエ（次の間）を各13.25㎡（8畳）とし、南側に内縁が各4.4㎡（2.6畳程度）付設し、縁西端



第5-20图 B地区681SB遺構図

に1.46 m² (0.8 畳程度) の物入れを設ける。北側の二間であるナンド(寝室)とダイドコ(居間)は、各13.25 m² (8 畳) に各6.95 m² (4.2 畳程度) の板間? を付設し、各20.2 m² (12.2 畳程度) の部屋としている。

他の遺構との切り合い関係は、北側桁行3列目より北側の217P・218P・219P・220P・224P・225Pは攪乱溝により大きく削平されている。

遺物は緑柱239Pの掘方から19世紀前葉の瀬戸美濃産染付丸碗破片が出土している。

遺構の時期は、近年解体されたという建物と平面・位置共に図が同じであることから、681SBはこの建物と考えられる。

C. 溝

001SD・090SD

溝001SDと溝009SDは、H6～H8・I6・I7グリットの北西壁際にあつて、中央の大きな攪乱により本来繋がっていた溝が分断されてしまっているものと考えられる。このため001SDと090SDは同一の溝である可能性が高く、主軸方位は南北方向で凡そ北より東に約5°である。溝の平面形状は、比較的明確な北西隅では北側より約4.5 m南で逆Y字状に枝分かれして西側と東側に分流し、さらに東側に分流した溝は約8 m先で南南西側に向かう溝とT字状に直角に枝分かれし、東流する溝は延長1.2 mで溝030SDと攪乱に切られ消失し、033SKと攪乱により少し飛んで南側に現れる溝090SDは、僅かに溝底の痕跡を三分して残す。東流する溝は、現状では痕跡を僅かにしか残さないが、本来は溝030SDとほぼ同じ規模で排水溝であったと考えられる。断面形状は、溝底が明確な逆台形である。溝底の傾斜は、北壁際で18.79 m、南壁際で18.64 mであり0.15 m差で南流する。規模は、枝流を除き延長が約27.5 m、幅が0.5～1.5 m、最深0.25 mである。埋土は、4-3層で堆積していたものを、ある時期に掘り直しており、その後は4-2層で埋積している。

他の遺構との切り合い関係は、後続する排水溝である030SDや、その後の002SDに切られる。

出土遺物には、弥生中期の広口壺989、近世の肥前産陶器の刷毛目文鉢980、瀬戸美濃産の壺・鉢・播鉢・広東碗978、常滑産の壺・播鉢979、土師器の鍋・焙烙、瓦等がある。

遺構の時期は、17世紀後葉～19世紀前葉と考えられる。ただ、それ以前の土器も含まれていることや、遺構の残りが悪いことを考えると、もう少し古い時期から存在した可能性も残されている。

002SD

溝002SDは、H6～H8グリットの西壁際にある。主軸方位は、南北方向で凡そ北より東に約16°から北より西に約2°の幅である。溝の平面形状は、北壁より南壁に向かってやや弧を描きながら南流する。南壁より5.7 m北側で、西壁側より流入する120SDがある。断面形状は、溝底が平らで急に立ち上がる筒形に近い逆台形である。溝底の傾斜は、北壁際で18.84 m、南壁際で18.49 mであり0.35 m差で南流する。規模は、延長が約24.6 m、幅が0.5～1.9 m、深さ0.12～0.37 mである。埋土は、北壁際の下層のみで部分的にみられる堆積が2-2層で、多くは上層の2-1層のみで埋積している。

他の遺構との切り合い関係は、北壁際で035SKや122SKに切られる。

出土遺物には、近世の非クロ調整の小皿 977、常滑産の甕、瓦、鉄鎌片等がある。

遺構の時期は、20 世紀前葉と考えられる。

030SD

溝 030SD は、H7・17・J7 グリットの西壁から東壁にある東西溝である。溝 030SD は、西壁際を除き現代の攪乱によりその上部の多くを消失しており、南北溝である溝 040SD・溝 200SD と交差していたものと考えられる。主軸方位は、東西方向で凡そ北より東に約 93° である。溝の平面形状は、東壁より西に 2.9 m で終わり、西端も土坑 008SK により大きく壊され、全体の東端も現代攪乱により壊されている。断面形状は、溝底が平らで逆台形に立ち上がる溝 001SD に近い形状である。溝底の傾斜は、東側で 18.87 m、西側で 18.73 m であり 0.14 m 差で西流させていたものと思われる。規模は、延長が約 17.6 m、幅が 0.7～1.13 m、深さ 0.04～0.3 m である。埋土は、下層が 4-7 層で埋積した後、上層の 4-6 層で埋積している。

他の遺構との切り合い関係は、008SK と 080SD、002SD 等に切られる。

出土遺物には、摩滅した弥生土器片、近世の瀬戸美濃産陶器の壺、常滑産の甕、瓦等が出土している。

遺構の時期は、19 世紀と考えられる。出土遺物には、摩滅した弥生土器片、近世の瀬戸美濃産陶器の壺、常滑産の甕、瓦等がある。

遺構の時期は、19 世紀と考えられる。

040SD・200SD

溝 040SD と溝 200SD は、16～18 グリットの北壁際から南壁際にある。溝 040SD と溝 200SD の間は、攪乱により約 9.8 m 消失しており、溝 200SD の北側についても幅が 0.3 m 余りに極端に狭くなっている。主軸方位は、南北方向で凡そ北より東に約 3° である。溝の平面形状は、北壁より南壁に向かって真直ぐ南流するが、南壁の手前約 2 m において少し屈曲する。断面形状は、溝底が平らで急に立ち上がる筒形に近い逆台形である。溝底の傾斜は、北壁際で 18.84 m、南壁際で 18.71 m であり 0.13 m 差で南流する。規模は、延長が約 24.3 m、幅が 0.15～0.95 m、深さ 0.04～0.4 m である。埋土は、4-6 層の 1 層のみで埋積している。

他の遺構との切り合い関係は、北壁際で 036P に切られる。

出土遺物には、近世の瀬戸美濃産陶器の碗・鉢・行平鍋、美濃産の太白焼碗、常滑産の甕、土師器の火鉢・鍋、瓦等がある。

遺構の時期は、19 世紀前葉～中葉と考えられる。

050SD

溝 050SD は、I6・J6 グリットの北壁際にある。溝 050SD は、攪乱によりその上部を消失しており、当初の幅や深さを知る資料は少ないが、掘立柱式建物 676SB の南側排水溝と考えられる。主軸方位は、南北方向で凡そ北より東に約 92° である。溝の平面形状は、溝 040SD の東側 0.9 m で終わるが、東側は土坑 089SK により大きく壊されている。断面形状は、溝底が平らで急に立ち上がる筒形に近い逆台

形である。溝底の傾斜は、東側で18.9 m、西側で18.78 mであり0.12 m差で西流させていたものと思われる。規模は、延長が約5.6 m、幅が0.4～0.55 m、深さ0.09～0.13 mと浅い。埋土は、4-6層の1層のみで埋積している。

他の遺構との切り合い関係は、089SKと049SK・051SKに切られる。

出土遺物には、弥生土器の壺片があるが混入遺物であり、遺構の時期は676SBと同じ時期と考えられる。

080SD

溝080SDは、J6・J7グリットの北東隅にある。溝080SDは、擾乱によりその南側と北側を消失しており、当初の幅や長さなどを知る資料は少ないが、排水溝と考えられる。南側を擾乱され排水の方向を確認できないが、おそらく西側に溝が延びていたのではないかとと思われる。主軸方位は、南北方向で凡そ北より東に約17°である。溝の平面形状は、幅のある溝状である。断面形状は、溝底が平らで急に立ち上がる逆台形である。溝底の傾斜は、北側で18.9 m、南側で18.86 mで南流させていたものと思われる。規模は、延長が約8.5 m、幅が1.9～2.2 m、深さ0.05～0.32 mである。埋土は、2-1層の1層のみで埋積している。

他の遺構との切り合い関係は、溝030SDと掘立柱式建物680SBを切る。

遺物は出土していないが、近現代の遺構である。

088SD

溝088SDは、J6グリットにある。主軸方位は、東西方向で凡そ北より西に約35°である。溝の平面形状は、やや蛇行して溝幅を不安定なものにしている。断面形状は、溝底が平らな逆台形である。溝底の傾斜は、距離が短く判断できない。規模は、延長が約1.5 m、幅が0.3～0.6 m、深さ約0.1 mである。埋土は、1-4層のみで埋積している。

他の遺構との切り合い関係は、089SK・080SKに切られる。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

120SD

溝120SDは、H7・H8グリットの西壁際にある、溝002SDに流れ込む枝溝である。主軸方位は、東西方向で凡そ北より西に約83°である。溝の平面形状は、西壁より直線的に流入する。断面形状は、溝底が平らで急に立ち上がる筒形に近い逆台形で、002SDとよく似る。溝底の傾斜は、西側で18.7 m、002SD側で18.64 mであり0.06 m差で東流させている。規模は、延長が約2.6 m、幅が0.4～0.5 m、深さ0.1～0.17 mである。埋土は、2-1層のみで埋積している。

他の遺構との切り合い関係は、117SK・123SK・215SKを切る。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

128SD

溝 128SD は、H8 グリットの西壁際にある。主軸方位は、東西方向で凡そ北より西に約 54° である。溝の平面形状は、溝幅の不定型な西壁より直線的に流入する溝である。断面形状は、溝底が平らで急に立ち上がる浅い皿形である。溝底の傾斜は、西側で 18.63 m、002SD 側で 18.62 m であり大きな変化はないが、002SD に流入させていた可能性がある。規模は、延長が約 2.1 m、幅が 0.38 ~ 0.8 m、深さ約 0.17 m である。埋土は、2-1 層のみで埋積している。

他の遺構との切り合い関係は、125SK と現代の攪乱土坑に切られる。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

241SD

溝 120SD は、I8・J8 グリットにある、掘立柱式建物 681SB の南側雨落溝である、主軸方位は、東西方向で凡そ北より東に約 90° である。溝の平面形状は、掘立柱式建物 681SB の南側縁の中心から約 0.75 m (2.5 尺) 南にある、幅の狭い浅い溝である。断面形状は、溝底が平らな浅い皿状である。溝底の傾斜は、西側で 18.77 m、東壁側で 18.79 m であり、溝の残存状況からも東流させていたものと見られる。規模は、延長が約 8.4 m、幅が 0.2 ~ 0.3 m、深さ 0.05 m 余りである。埋土は、1-4 層のみで埋積している。

他の遺構との切り合い関係は、特にない。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

390SD

溝 390SD は、I9・J9・I10・J10 グリットのトレンチ南端にある。溝 390SD は、現代の攪乱によりその上部を広く消失しているが、調査前の主屋と同じ南側からの進入口を示す側溝と考えられる。主軸方位は、東西溝が凡そ北より東に約 90° である。溝の平面形状は、逆 L 字状で、南北溝部分は 679SA とセット関係にあるものと考えられる。東西溝は、現行の道の前身遺構と考えられる。断面形状は、溝底が平らな浅い皿状である。溝底の傾斜は、北側で 18.52 m、西側で 18.4 m であり 0.12 m 差で西流させていたものと思われる。規模は、延長が約 6 m、幅が 0.44 ~ 0.9 m、深さ 0.02 ~ 0.1 m と浅い。埋土は、2-1 層の 1 層のみで埋積している。

他の遺構との切り合い関係は、20 世紀前葉の攪乱坑 391SK に切られる。

遺物は土師器の焙烙 986 と非クロコ調整の中皿 987、磁器碗片が出土している。

遺構の時期は 19 世紀前葉・中葉から 19 世紀後葉・20 世紀前葉までの間か。

D. 掘立柱式槽

666SA (第 5-13 図 B 地区 665SB・666SA・667SA 遺構図)

掘立柱式槽 666SA は、I7・I8 グリットにあって、南側を調査区外とするため全体は把握できていないが、南北方向 4 間以上の槽と考えられる。主軸方位は、北より西に約 2° である。規模は、4 間以

上の8.43 m以上(北2.91 m + 2 m + 2 m + 1.52 m + X m以上南)で、溝090SDの東側に設けられた、比較的しっかりした櫓というよりは塙に近いが、柱間が不揃いであり上部構造まで明らかにできないので、以後も一律に櫓とする。

柱穴掘方の平面形と大きさは、壁際の157Pは形状が分からないが、190Pは0.56 m × 0.65 mの楕円形で、他の3柱穴は長辺0.63 ~ 0.93 m × 短辺0.55 ~ 0.7 m余りの隅丸方形である。柱穴掘方の深さは0.2 ~ 0.35 mの標高18.5 ~ 18.6 m前後である。断面形状は逆台形か鉢形を呈する。埋土は、4-2層で大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から直径0.3 ~ 0.35 m前後の丸柱である。

他の遺構との切り合い関係は、666SA撤去後に0.27 m東に設けられた667SAの柱穴に、179Pは178Pに、190Pは189Pに、348Pは347Pに、157Pは152Pにそれぞれ切られている。また、194Pは664SBの195Pを切り、664SBの南西隅柱を157Pが壊している。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

667SA (第5-13 図B地区665SB・666SA・667SA遺構図)

掘立柱式櫓667SAは、I7・I8グリットにあって、666SA同様に南側を調査区外とするため全体は把握できていないが、南北方向4間以上の櫓と考えられる。主軸方位は、666SAと同じ北より西に約2°である。規模は、4間以上の8.52 m以上(北2.91 m + 1.61 m + 2 m + 2 m + X m以上南)で、666SAに後続する溝090SDの東側に設けられた櫓である。

柱穴掘方の平面形と大きさは、壁際の152Pの形状は分からないが、いずれも長辺0.4 ~ 0.85 m × 短辺0.4 ~ 0.47 m余りの楕円形である。柱穴掘方の深さは0.2 ~ 0.5 mの標高18.5 ~ 18.7 m前後である。断面形状は逆台形か鉢形を呈する。埋土は、4-3層で大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から666SAよりはやや細い直径0.25 m前後の丸柱である。

他の遺構との切り合い関係は、666SAの柱穴を切ると共に、189Pは672SAの188Pに、193P西は193P東にそれぞれ切られている。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

672SA (第5-16 図B地区671SB・672SA遺構図)

掘立柱式櫓672SAは、I8・J8グリットにあって、東西方向4間の櫓である。主軸方位は、掘立柱式建物671SBから西へ4.24 m(14尺)離れて、同じ北より東に約97°(北より西に83°)の方位である。規模は、4間の7.46 m(西1.52 m + 2.12 m + 1.7 m + 2.12 m東)である。

柱穴掘方の平面形と大きさは、186Pは長辺(0.58) m × 短辺0.52 mの隅丸方形で、他の4柱穴は0.4 ~ 0.6 m余りの楕円形である。柱穴掘方の深さは0.35 ~ 0.5 mの標高18.5 ~ 18.6 m前後である。断面形状は逆台形を呈する。埋土は、4-2層で大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から直径0.2 ~ 0.25 m前後の丸柱である。

他の遺構との切り合い関係は、186Pが200SDに、257Pが674SAの258Pに切られている。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

674SA (第5-17 図B地区 673SB・674SA・675SA 遺構図)

掘立柱式構 674SA は、I7・I8 グリットにあって、南北方向 5 間以上の構と考えられる。主軸方位は、掘立柱式建物 673SB と 90° 異なる西に約 1° である。規模は、5 間以上の 10.67 m 以上（北 2.12 m + 2.79 m + 1.82 m + 1.82 m + 2.12 m + X m 以上南）で、南北溝 200SD の東側に添って東西溝 030SD までを囲う、掘方も柱間も揃いで柱も細いことから構とみられる。

柱穴掘方の平面形と大きさは、0.4～0.5 m 余りの円形又は楕円形である。柱穴掘方の深さは 0.05～0.3 m と全体に浅く、標高 18.7～18.8 m 前後である。断面形状は逆台形か鉢形を呈する。埋土は、4-6 層で大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から直径 0.2 m 以下の丸柱である。

他の遺構との切り合い関係は、257P が 674SA の 258P に、340P が 337P と 338P に切られている。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

675SA (第5-17 図B地区 673SB・674SA・675SA 遺構図)

掘立柱式構 675SA は、I7・J7 グリットにあって、東西方向 2 間の構と考えられる。主軸方位は、掘立柱式建物 673SB と同じ北より東に約 89°（北より西に 91°）である。規模は、2 間の 3.8 m（北 1.9 m + 1.9 m 南）で、掘立柱式建物 673SB の北西隅 500P に接続する塀に近いものであろう。

柱穴掘方の平面形と大きさは、267P は長辺 0.68 m × 短辺 0.52 m の隅丸方形で、他の 2 柱穴は 0.34～0.52 m 余りの楕円形である。柱穴掘方の深さは 0.1～0.15 m と浅く、標高 18.9 m 前後である。断面形状は逆台形か鉢形を呈する。埋土は、4-6 層で大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から直径 0.3 m 前後の丸柱である。

他の遺構との切り合い関係は、267P が 673SB の 500P に切られていて前後関係がある。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでないが、673SB と同一時期と考えられる。

678SA (第5-18 図B地区 677SB・678SA 遺構図)

掘立柱式構 678SA は、J9 グリットにあって、東西方向 2 間の構と考えられる。主軸方位は、掘立柱式建物 677SB と同じ北より東に約 93°（北より西に 87°）である。規模は、2 間の 3.64 m（北 1.82 m + 1.82 m 南）である。掘立柱式建物 677SB のオデイ（座敷）付近の梁行中心から、南側に 1.97 m（6.5 尺）離れて作られており、目録的なものか風除け的なものか、他の機能をもつものか不明である。

柱穴掘方の平面形と大きさはまちまちで、372P は長辺 0.58 m × 短辺 0.55 m の隅丸方形で、他の 2 柱穴は 0.28～0.5 m 余りの楕円形である。柱穴掘方の深さは 0.5～0.15 m と浅く、標高 18.5～18.6 m 前後である。断面形状は逆台形か鉢形を呈する。埋土は、4-2 層で大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から直径 0.2 m 前後の丸柱である。

他の遺構との切り合い関係は無いが、389P・371P の上部は攪乱により削平を受けている。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでないが、677SB と同時期と考えられる。

679SA (第5-19図B地区676SB・679SA・680SB遺構図)

掘立柱式柵 679SA は、J9 グリットにあって、南北方向2間の柵と考えられる。主軸方位は、掘立柱式建物 677SB と 90° 異なる北より東に約 3° である。規模は、2間の 3.82 m (北 1.91 m + 1.91 m 南) である。掘立柱式建物 677SB への南側からの敷地進入口西側溝 390SD 添いに設けられた、柵的な遺構と考えられる。なお、同じ位置で 679SA を切る北より西に約 1° で、431P - 384P - 385P の南北2間 3.42 m (北 1.82 m + 1.6 m 南) の柵も考えられるかもしれない。

柱穴掘方の平面形と大きさは、0.25 ~ 0.43 m 余りの楕円形である。柱穴掘方の深さは 0.1 ~ 0.2 m と浅く、標高 18.3 ~ 18.4 m 前後である。断面形状は逆台形か鉢形を呈する。埋土は、4-2 層で大きく変化はない。使用していた柱は、柱根を残すものは無かったが、柱の抜き取り穴等の痕跡から直径 0.1 m 前後の丸柱である。

他の遺構との切り合い関係はない。

679SA から遺物は出土していないが、383P を切る 384P 柱穴より 19 世紀後葉の瀬戸産陶器の火鉢 985 が出土している。

遺構の時期は、19 世紀後葉以前か。

E. 土坑

003SK

土坑 003SK は、H6 グリットの北壁際にあり、溝 001SD を切り、溝 002SD に切られる土坑である。長さ 1.1 m 以上、幅 1.08 m、最深 0.19 m、断面皿状で平面楕円形の土坑である。堆積層は 2-3 層である。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

004SK

土坑 004SK は、H6 グリットの西壁際にある土坑である。長さ 0.5 m 以上、幅 0.5 m、最深 0.16 m、断面鉢状で平面楕円形の土坑である。堆積層は 2-2 層である。

遺物は、陶器の鉢が出土している。

遺構の時期は近世である。

005SK

土坑 005SK は、H6 グリットの西壁際にあり、溝 001SD を切る土坑である。長さ 0.93 m 以上、幅 1.75 m 以上、最深 0.43 m、断面皿状で平面楕円形の土坑である。堆積層は 2-1 層である。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

008SK

土坑 008SK は、H6・H7 グリットの西壁際にあり、溝 002SD に切られる土坑である。長さ 3.63 m 以上、幅 2.97 m 以上、最深 0.28 m、断面皿状で平面楕円形の大きな土坑である。堆積層は 2-3 層である。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

011SK

土坑 011SK は、H6 グリットにあり、溝 002SD に切られる土坑である。長さ 0.96 m 以上、幅 0.38 m 以上、最深 0.14 m、断面皿状で平面楕円形の土坑である。堆積層は 2-3 層である。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

020SK

土坑 020SK は、H6 グリットにあり、溝 001SD に切られる土坑である。長さ 0.62 m 以上、幅 1.02 m 以上、最深 0.2 m、断面皿状で平面楕円形の土坑である。堆積層は 4-4 層である。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

030SK

土坑 030SK は、H6・H7・I6・I7 グリットにあり、溝 001SD を切る土坑である。長さ 3.6 m 以上、幅 3.5 m 以上、最深 0.22 m、断面皿状で平面長楕円形の大型土坑である。堆積層は 2-1 層である。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

070SK

土坑 070SK は、I6 グリットにあり、掘立柱建物 680SB を切る土坑である。長さ 3.6 m、幅 2.6 m、最深 0.25 m、断面皿状で平面長楕円形の穴と浅い方形土坑である。堆積層は 2-1 層である。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

140SK

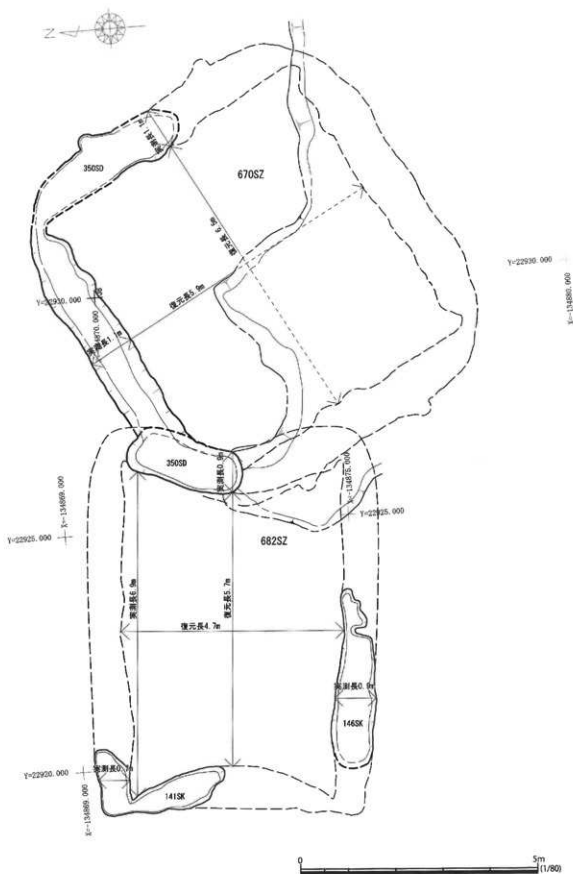
土坑 140SK は、I7 グリットにあり、植栽土坑である。長さ 1.4 m、幅 1.27 m、最深 0.05 m、断面逆台形の幅 0.3 ~ 0.4 m の円形である。植栽のための堆積層は 2-1 層である。

遺物は出土しておらず、遺構の時期は明らかでない。

F. 方形周溝墓

670SZ (第 5-21 図 B 地区方形周溝墓 670SZ・方形周溝墓状遺構 682SZ 推定復元図)

方形周溝墓 670SZ は、I7・I8・J7・J8 グリットにあつて、北西の周溝 350SD と北東の周溝の一部を残すもので、南側の凡そ半分を壊された方形周溝墓である。主軸方位は現存する遺構の状況より、北より約 61° 東とみられる。盛土及び主体部は、既に削平されていて残存していない。方形台部の形状は、残存する北西の周溝 350SD と北東の周溝の一部から復元すると、第 5-21 図方形周溝墓 670SZ・方形周溝墓状遺構 682SZ 推定復元図のように南西側の擾乱が大きいこともあるが、主軸方向の南西に長い長方形とみられる。復元される方形台部の一辺は、北隅のように隅部分を掘り残して突出させ、周溝は幅を狭める。方形台部の復元長は、最大の東西実測長は 6.5 m から東西復元長 6.5 m 前後に、



第5-21图 B地区方形周溝墓670SZ·方形周溝墓遺構682SZ推定復元図

最大の南北実測長は6.2mで南北復元幅が5.9m前後となる。なお、周溝西隅の部分は、土層の切り合いは見られなかったが、670SZ構築後まもない時に拡張されたのか、下記の方形周溝墓状遺構682SZに掘り込まれた可能性があり変形している。周溝は、北西溝が最も広く最大幅1.1m、最深0.21m、北隅溝は最小幅0.3m、最深0.1m、北東溝は最大幅1.1mで、最深0.08mである。周溝350SDを含めた凡その復元長は、全長が8.5m前後に、全幅も7.9m前後に復元される。第5-8図B地区遺構断面図に図示した350SDのA-A'・B-B'の断面からも明らかのように、底の平らな皿状で、周溝外側の傾斜が34°～45°であるのに対し、台部側の傾斜が73°～90°と方形台部側が大きく立ち上がっている。周溝の堆積層は上下2層で、上層が4-8層、下層が4-9層で、方形台部側からの堆積傾斜であり、盛土が存在した。

周溝内からは、146SKより出土した弥生時代中期後葉の長床様式広口壺988と接合する土器片が出土している。

G. 方形周溝墓状遺構

682SZ (第5-21図B地区方形周溝墓670SZ・方形周溝墓状遺構682SZ推定復元図)

方形周溝墓状遺構682SZは、H7・H8・I7・I8グリットにある2基の土坑とした遺構であるが、方形周溝墓の痕跡の可能性をもつものとして提示しておく。ほぼ直角L字に曲がる北西隅部分かと思われる141SK、南隅溝の一部かと思われる146SK、先述した方形周溝墓670SZの西隅周溝の変形部分のなどを考え合わせると、正確な形状は不明であるが方形周溝墓の可能性があると考えている。

主軸方位は東西方向にあるようで、北より約94°東とみられる。盛土及び主体部は、既に削平されて、全く残存していない。方形台部の形状は、残存する141SK北西隅と670SZ西隅周溝の変形を、周溝墓の一部として復元すると、第5-21図B地区方形周溝墓670SZ・方形周溝墓状遺構682SZ推定復元図ようになる。方形台部の形状は、基本的には東西に長い長方形で、北側がやや開く逆台形と考えられ、隅部が突出する可能性がある。周溝は四隅を掘り残して台部側を内湾気味に掘り込む可能性があり、台部隅の部分で幅が狭くなる。方形台部の復元長は、最大の東西実測長は6.9mで東西復元長が5.7m前後に、最大の南北実測長は4.3mで南北復元幅が4.7m前後となる。周溝幅は、南隅溝の一部かと思われる146SKが最も広く最大幅0.9m、最深0.11m、北西隅溝は141SKから最小幅0.2m、最深0.06mと浅く、東溝は最大幅0.9mで、最深0.13mである。周溝を含めた凡その復元長は、全長が7.6m前後に、全幅が6.1m前後に復元される。第5-8図B地区遺構断面図に図示した146SKのA-A'と141SKのA-A'の断面からも明らかのように、周溝の断面は底の平らな皿状で、周溝外側の傾斜が32°であるのに対し、台部側の傾斜が45°と台部側の角度が大きく、これについても670SZと同じ傾向が見られる。方形周溝墓670SZと方形周溝墓状遺構682SZの切り合い関係については、土層的には確認できないが、平面的には後者が前者を切っているようにみられる。周溝の堆積層は4-8層である。

146SKの底からやや浮いた4-8層内から、弥生時代中期後葉の長床様式の広口壺988の胴下半が1点出土している。141SKからの遺物の出土はない。

5. 小 結

今回の調査で明らかとなった、A地区の前方後方形周溝墓と寄贈蔵骨器、B地区の近世掘立柱式建物群の変遷について報告しておきたい。

1) 前方後方形周溝墓 110SZ

A. 平面構造

前方後方形周溝墓 110SZ の平面的な特徴は、以下のように考えられる。①前方部の形状が横長の逆台形である。②後方部から前方部への移行が緩やかである。③前方部端が大きく開く鏡の柄状である。④全長に対する後方部長:前方部長は、6:4 の比率である。⑤周溝は墳丘を全周していなかったか、あったとしても浅いものであった。

①後方部は、正方形や長方形とはならず、逆台形もしくは横に広がる羽子板状で、長辺 7.6 m、短辺 6.4 m、高さ 7 m と、やや横長である。

②典型的な前方後方形の墳丘墓は、方形の後方部中軸線の中心点を頂点とする二等辺三角形の前方部が取り付くのが基本形であり、前方部と後方部が接するくびれ部には屈曲部が生じることとなる。110SZ の場合は、後方部短辺からのラインはいまいに前方部に移行し、くびれ部は後方部側に移動する。

③②で言及した一般的な前方後方形の墳丘墓に対し 110SZ は、後方部の短辺と中軸線の交点が頂点となる底辺 5.8 m、高さ 5 m の正三角形に近い二等辺三角形となり、これにいまいな後方部から前方部への幅 2.3 m 幅のラインが接続し、裾の広がる鏡柄状の大きく広がる前方部を作る。後方部の短辺長が 6.4 m であるから、前方部幅の 5.8 m は極めて広いといえる。

④全長 12.1 m に占める後方部長は 7.1 m で 59% (約 6 割)、前方部長は 5 m で 41% (約 4 割) の割合になる。後方部長:前方部長 = 6:4 の比率については、西上免古墳(廻間Ⅰ式後葉・廻間Ⅱ式前葉)・東町田遺跡 SZ10(廻間Ⅱ様式中葉)・東町田遺跡 SZ02(廻間Ⅲ様式前葉)・象鼻山 1 号墳(廻間Ⅲ様式前葉)を始めとする前方後方形周溝墓や墳丘墓に採用されている。その前段では廻間遺跡 SZ01(廻間Ⅰ様式前葉)などの 7:3 前後が 6:4 になり、次には 5:5 前後に近づく傾向がみられるようである。

⑤残存する周溝は後方部で幅 2.3 m を残しているが、前方部前面では見られない。全周していたか、当初から切れていたのかははっきりしないが、切れていたか、あったとしても浅い幅の狭い溝であったと考えられる。

B. 西側遺跡における位置

今回の調査において検出された前方後方形周溝墓 110SZ は、牛川の段丘が小河川により浸食された豊川に面する小尾根斜面上に作られている。斜面上部の平場である B 地区には、弥生時代中期後葉(長床様式)の方形周溝墓 670SZ と方形周溝墓状遺構 682SZ の 2 基があり、この尾根上には古くから墓地在営まれていたと思われる。この時期の住居は、今回の調査範囲では確認できなかったが、隣接する

眼鏡下池北遺跡では同時期の3棟余りの竪穴式建物が確認されている。西側遺跡では、弥生時代中期後葉の長床様式の時期の方形周溝墓が、A4地区において接続し溝の四隅が切れる1200SZ・1700SZ・1800SZの3基が発見されているが、住居は確認されていない。これに続くやや新しい長床様式の方形周溝墓が、第2次発掘調査区において接続し溝の四隅が切れるSZ-01など2基からなるものがあるが、住居はやはり確認されていない。弥生時代後期の寄道Ⅱ式前半の方形周溝墓は、第2次発掘調査区の環濠外において、明確ではない四隅が切れない方形周溝墓SZ-02が1基存在する。この様に中期後葉までは、居住地点毎に数家族からなる集団が、小規模な集落と墓地を営んでいたものと考えることができる。

その後、西側遺跡では後期の寄道Ⅰ様式には環濠が作られており、集落の再編があったと理解され、住居や墓地もその位置を変更していると考えられる。しかし、今回の調査範囲内では環濠内（環濠西側）に後期の竪穴式建物痕跡170SXや土器・石器の散布が僅かに確認できたが、確実な遺構を確認することはできなかった。

環濠も寄道Ⅲ様式前半頃には、環濠への土器の大量投棄があり、集落機能の停止があったものと考えられる。そして、寄道Ⅲ様式後半頃（山中Ⅱ式4）には環濠内の段丘崖に周溝墓状遺構1801SZと、これに継続する2基の周溝墓状遺構1802SZ・1803SZが作られた。完全に環濠内が、集落ではなく墓地と化したことを示すものである。そのあり方は、構造こそ溝が全周する方形周溝墓であるが前代と同じ接続する周溝墓であり、複数有力家族の紐帯の中で築造されたものと解することができる。この後、廻間Ⅲ式（元屋敷新式）の110SZ築造までの間は、墓地・集落共に確認できていない空白の時間帯がある。

そして廻間Ⅲ式（元屋敷新式）初めには尾根の一番高いところに、前方後方形周溝墓110SZは作られたと見られる。この時期の集落は、今回の西側遺跡の調査範囲では発見できていない。110SZの次世代の墳丘墓は、同じ尾根筋の下に2基作られている。詳細はまだ明らかでないが、110SZの西北西20～30mにある牟呂用水を越えた西側北遺跡で、古墳時代前期後葉の木棺直葬を主体部とする方墳2基（西側北1号墳・2号墳で、何れも前方後方形の可能性があると いわれる。）が、2006年度・2007年度にそれぞれ発掘調査されている。さらに後続する後期古墳は、眼鏡下池北遺跡の北側で木棺直葬と思われる方墳の痕跡が2009年度に3基調査されている。このように段丘の同一斜面（尾根筋）上に古墳時代初頭から前期へと、さらに古墳時代後期までも主体部を同じくする継続した墓域が、小さな尾根単位で存在したことがわかる。こうした指摘（岩原2009）は、既に行われている。

今回の例と同質と思われるものには、本遺跡から北東約500mに存在する、小さな谷を挟んだ段丘の上に浪ノ上1号墳（1949年調査・消滅）がある。方墳とされる主体部は木棺直葬で、長さ66cmの素環頭大刀1本と瓢形壺1個を出土している。さらに西側の尾根中程に近接して存在する方墳の稲荷山1号墳と2号墳（一辺11m）がある。墓域の東側には浪ノ上遺跡が所在する。北東には古墳時代中期ではあるが常総型石枕を出土した中野古墳（消滅）と中野遺跡がある。神田川を北に越えた石巻本町には前期の前方後方墳である勝山1号墳（全長44m、高さ3m）と4基の円墳が、その南には前期末の前方後円墳の権現山1号墳（全長38.4m、高さ3.8m）と他に前方後円墳1基と円墳2基などがある。さらに海岸部でも牟呂市場町にある前方後方墳の市杵嶋神社古墳（全長60m前後）は、

廻間Ⅲ式前葉に位置づけられる。これらの例は、墳丘墓が各集落において規模は異なれども相前後して築造されている様子がうかがえ、前方後方形の墳丘墓自体も極めて特異なものではなく、各集落（村）の統括者が東三河の牛川地区においては築造しえるものと考えることができる。

今回の前方後方形周溝墓110S2は、方形周溝墓群中に1基のみ墳形が異なる前方後方形周溝墓があるのか、集団から飛び出して単独墓となっていたものかは、削平部分の多いA地区やB地区での状況からは慎重を要するに思われる。ただ、これまでの方形周溝墓ではなく異質異例な墳形をもつこの存在は、均質に近い集団の中から集団を統率する個人や家が顕在化し始めたことを示す資料といえる。この墳丘墓が、牛川の段丘崖にそれほど大きくもない居住範囲（村）毎に、規模は異なれどもほぼ相前後して築造されている可能性があることは重要である。

さらにこの地域の後期古墳群は、再び主体部を木棺直葬とする方墳や円墳の群集墳を形成して、周溝墓群のようなあり方を呈する。同じ後期でも、山側の乗小路古墳群、大亀古墳群、キジ山古墳群、馬越北山古墳群などの、主体部が横穴式石室である古墳群とは、そのあり方が大きく異なる。

2) 古墓の土器

A地区調査中に、倉庫の解体を始めておられた矢野重夫氏のご家族より、第1次発掘調査（1982年）の契機ともなった古墓の陶器2点が倉庫より再発見されたので、市教委に寄贈したい旨連絡をいただいた。早々に小林学芸員とお伺いし寄贈の手続きをとっていただいた。

出土地点は、矢野氏住宅南側の玄関先で、牟呂用水への傾斜地の手前に低い盛土があったと伝えられ、現在はその場所を示すものはない。第1次発掘調査の遺構検出地点からは南東に約40m離れた、最も南に位置した古墓であったと思われる。

蔵骨器は2点共に土砂が入った状態で、出土した当時のまま保管されていた。第5-5図A地区遺物実測図の970と971である。

970は丸形の常滑産小甕で、口径17.4cm、器高14.8cm、底径13.1cm、肩部に外径11mm、内径7mmの三方を閉じる円形の陰刻押印文を1個押す。常滑9・10型式の15世紀代か。甕内に95.6gの火葬骨が残存していた。

971は口縁部を欠く常滑産玉縁口縁甕で、器高19cm以上、底径9.6cm、肩部に外径6.5mmの円形陰刻押印文を山形に3個押す。底部には焼成後の穿孔がみられる。常滑9・10型式の15世紀代か。甕内に23.4gの火葬骨が残存していた。

これらは、何れも12世紀末に始まり15世紀内で終息する西側古墓群の中にあつては、最も新しい時期の一群であるといえる。

3) 近世の掘立柱式建物の変遷と評価

B地区において、ほぼ同一カ所において近世の掘立柱式建物から近代・現代（以下、「近現代」という。）の礎石建式建物への変遷が追える資料を検出することができた。この変遷は、遺構の切り合い関係、埋土、柱穴と掘方内の出土遺物、建物の主軸方位、参考資料として包含層出土遺物等によって、近世を6小期に、近現代を2小期に分けることができる。以下、建物群以前の3小期を加えた変

還も含め、各小期の景観と年代観を、B地区を中心とした第5-22図B地区遺構変遷図により示す。

① 弥生時代中期後葉

弥生時代の墓地の時代。B地区では、地形が僅かに高い南側に方形周溝墓670SZがまず作られ、その直ぐ後に方形周溝墓670SZの西隅の一部を切って西側の低い方に方形周溝状遺構682SZが作られた。周辺にも同規模の周溝墓の存在した可能性は高いが、数基であろう。A地区では溝006SDの存在から、緩傾斜地における水田か畑作耕作の可能性を指摘した。

② 古墳時代前期

古墳時代の墓地の時代。B地区ではこの時期の遺構は見られないが、A地区では全長12.1mの前方後方形周溝墓が、段丘の尾根頂部に瀬間Ⅲ式期（布留期）に現れる。隣接して同時期の周溝墓が存在したかどうかは不明である。以後、段丘下に向けて西側北1号墳・2号墳が営まれる。

③ 平安時代末～室町時代（12世紀末～15世紀末）

古代末・中世の墓地の時代。これまでの調査で確認されている古墳遺構の数は、僅かに土坑墓8基、集石墓11基であるが、牟呂用水の掘削や墓地造成に伴い相当数の古墳が消失したものと思われる。古墳が営まれた背景には、正太寺（正太寺は天正19年（1522）創建と伝える。）の前身寺院である「大明寺」の存在が大きく、調査地は字西側の寺領であったと伝えられる。

④ 近世1（17世紀前半～中葉）

移住と屋敷地の誕生。B地区の中央でそれまで何も無かった場所に、牛馬舎を付設する東西棟の直屋建前広間三間取の掘立柱建物664SB（推定18.8坪・主軸方位北96°東）が建てられる。東三河では、一般的に百姓屋の屋内に牛馬舎を設けるのは釜屋建例が増加する18世紀初頃であり、早い例といえる。敷地西側の区画溝001SD・090SDは、近世4からは存在していたようであるが、それ以前の状況は不明である。僅かに複数の溝底を残す090SDの形状や建物の位置から、090SDの前身遺構である排水溝の存在が予想される。これによって、屋敷地は西側と東側に大きく分割されていた可能性がある。

⑤ 近世2（17世紀中葉～後葉）

664SBのあった位置を外して、その東側に東西棟とみられる665SB（主軸方位北88°東）が建て替えられるが規模・構造は不明である。前代の664SBとほぼ同規模か。区画溝090SDの東側に、664SBと同じ方位の柵666SAが設けられる。この柵は、その後ほぼ同位置に667SAとして建て替えられる。西隣の農家との目隠堀が強く意識されている。また、建物の建て位置は、以後空き地に新築し既存住宅を解体する交互建て替えが近世4まで行われる。

⑥ 近世3（17世紀後葉～18世紀前半）

屋敷地の三分割。665SBのあった位置を外して、その西側に東西棟の直屋建庇付前広間三間取の掘立柱建物668SB（22.8坪・主軸方位北93°東）が建て替えられる。664SBと同じ前広間三間取であるが、東側土間を庇構造とするものである。これは東三河の豊川流域から遠江の天竜川流域にかけて分布する、農家等を中心とした建物構造である窯屋建の前身遺構ともいえる構造である。区画溝001SD・090SDが、この時期に設けられたと考えられる。この区画溝は001SDが示すように、やや食い違いで西側を北と南の二分割と東側との三分割とするものである。

⑦ 近世4（18世紀前半～後葉）

668SBを外して、その東側に東西棟とみられる掘立柱式建物 669SB(主軸方位北 91° 東)が建て替えられるが規模・構造は不明である。区画溝 001SD・090SDが存在する。

⑧ 近世5(18世紀後葉～19世紀前葉)

669SBと同じ位置に、東西棟の小規模な直屋建の掘立柱式建物 671SB(主軸方位北 97° 東)が建て替えられる。671SBの西側には、090SDまでの間に東西方向の 672SAがみられ、東側屋敷地を南北に二分割する目的で設けられた可能性がある。この頃より遺物に瓦が出土しはじめるが、この建物に伴う物とは考えていない。むしろ近世6まで建物規模も縮小しており、周辺の敷地の建物に係わる遺物と考えたい。

⑨ 近世6(19世紀前葉～中葉)

屋敷地の新たな四分割。669SB・671SBと同じ位置に、東西棟の小規模な直屋建の掘立柱式建物 673SB(主軸方位北 89° 東)が建て替えられる。区画溝は南北方向が 040SD・200SDによって、東西方向が 030SDによって十字に設けられ、敷地を四分割している。この内、673SBのある南東屋敷地では、200SDの東隣に南北方向の溝 674SAが、673SB北側桁行方向に溝 675SAがあり、673SBの西に一つの空間を作っている。さらに 673SBの北東屋敷地には、南北棟の小規模な掘立柱式建物 676SBが見れる。

⑩ 近現代1(19世紀前葉～中葉)

大型掘立柱式建物の建築。669SB・671SB・673SBと同じ位置に、東西棟と思われる大型の直屋建広間三間取の掘立柱式建物 677SB(推定 25.5 坪・主軸方位北 93° 東)が建て替えられる。南西屋敷地への進入路の整備に伴う南側側溝 390SDの掘り込みと南側入口の溝 679SAの設置、南側進入路からオゼイ(座敷)を目隠しするための溝 678SAの設置がある。北東屋敷地に、納屋的なものか家畜小屋的なものとみられる細長い東西棟の掘立柱式建物 680SBが作られる。

⑪ 近現代2(19世紀中葉～20世紀後葉)

礎石建式建物の建築と屋敷地の拡大。東西棟と思われる大型の直屋建整形四間取の礎石建式建物 681SB(推定 32.75 坪・主軸方位北 90° 東)が、677SBと同じ位置で建て替えられる。これまでの掘立柱式建物から、礎石建式建物 681SBへの変更がある。これにより建物の基準尺に揺らぎが無くなり、耐用年数が格段に長くなる。南北溝 040SD・200SDが西側に移動し、002SDの位置まで移動し、敷地の拡大ははかられる。その変化はさらに早く、19世紀後葉の地検取り調べまでには現状の民地境界まで敷地が拡大したものと推測される。東西溝についても、681SBの北側に小規模な排水溝の存在した可能性が高いが、南北溝同様に東西溝も北側に拡大し、現状の境界まで拡大したものと考えられる。

近世の掘立柱式建物が19世紀中葉まで存在していたということ。これは今回の調査でも、隣接する眼鏡下池北遺跡や西側遺跡と同様の状況が得られた。その建物構造は、尾張と三河西部・渥美で多い鳥居建形式の民家ではなく、三河東部・豊川流域中流以南から遠江西部・天竜川流域の釜屋建(周旋釜屋)形式でも、豊川上流域の船構造形式でもない、一貫して直屋建形式であったことである。このことは、釜屋建自体が直屋(主屋・居宅)と釜屋(土間で竈(と端火)場と作業場・道具置場)の合体構造であること、古い釜屋建遺存例が庄屋などの規模の大きい農家にしかみられないことから、小型の直屋建は江戸末～明治初期頃に釜屋を建て替えや増築に伴って付け加えた結果ではない

かとみられており（川村 1984）、釜屋建が多く残る豊橋市域の民家形式遺存状況と今回の調査例はそれを直接示すものではないが、その可能性の高いことを示すものといえる。



写真5-1 釜屋建民家と谷樋（豊橋市石巻本町広福・鈴木邸 2010.01.30撮影）

（参考文献）

- ・小林久彦（1991）『牛川西部地区遺跡範囲確認調査報告書』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第12集、豊橋市教育委員会
- ・芳賀隆・小畑順孝・石川明弘（2003）「西側古高群」『車神社古墳・宮脇1号墳・西側古高群』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第76集、豊橋市教育委員会
- ・岩原剛（2009）『洗島遺跡（Ⅱ）・西側遺跡（Ⅳ）・眼鏡下池北遺跡（Ⅱ）・中郷西遺跡（Ⅱ）』～牛川西部土地地区面整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書～『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第107集、豊橋市教育委員会』
- ・小林久彦・高梨雅幸ほか（2009）『眼鏡下池北遺跡現地説明会資料』豊橋市教育委員会・㈱パスコ
- ・赤塚次郎（1992）「東海のB型墳」『東海大学校地内遺跡調査団報告3』東海大学校地内遺跡調査団
- ・赤塚次郎（1997）「西上免古墳を巡る2つの問題」『西上免遺跡』pp.96～101、愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第73集、財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- ・鈴木元（2004）「弥生時代終末～古墳時代初頭の様相」『東町田遺跡』pp.186～187、大垣市埋蔵文化財調査報告書第14集、大垣市教育委員会
- ・ト部行弘（2004）「前方後方墳～もう一人の主役～」『前方後方墳』pp.5～10・81～87、奈良県橿原考古学研究所附属博物館特別展図録第62集、奈良県橿原考古学研究所附属博物館
- ・川村力男（1984）「民家の解説」『愛知の民家』217-231、愛知県建築士会
- ・浅川謙男・箱崎和久編（2001）『煙もれた中近世の住まい』同成社
- ・宮本常一（2007）「二つの家」『日本人の住まい』pp.85-102、社団法人農山漁村文化協会

第6章 中郷西遺跡の試掘調査

1. これまでの調査と調査地の位置

中郷西遺跡は、牛川の段丘面を南西方向に流れる眼鏡川左岸に立地する、中世から近世の遺跡として把握されている。中郷西遺跡周辺の遺跡としては、同じ左岸の東側に中郷遺跡が存在し、対岸の右岸には東側遺跡が存在している。

これまでの調査では、平成17年度の第1次発掘調査において、近世の遺構を中心に縄文時代の遺構や遺物が検出され、平成18年度の第2次発掘調査においては、遺跡南端の約600㎡が調査され近代・現代の遺構と遺物が検出された。

今回の調査地は、遺跡中央部に近い第6-1図トレンチ位置図の部分で、東側は住宅や畑地に、西側は眼鏡川となり南側の畑よりも1.4m余り高い地形となっている。調査時点では民家1軒分が更地となっていたが、隣接地は密集した新興の住宅地であるにもかかわらず、近世・近代の墓石が数基ずつ角地や敷地の一角に点在していた。

2. 遺構と遺物

調査地内に1トレンチ(1m×10m)を設けて、試掘調査を実施した。擾乱層である1-1層と1-2層を約0.2～0.3m除去すると地山層である5-1層上面が現れ、この上面で遺構を検出した。

遺構は、第6-2図平面図・壁面図に示す近世・近代の墓墳2基を検出した。他に遺構は何ら検出しておらず、遺物の出土もなかった。

A. 墓 墳

001SK

墓墳001SKは、長辺0.6m×短辺0.5mの楕円形で、人骨が出土した。人骨以外の遺物の出土はなかった。

002SK

墓墳002SKは、長さ1m以上×幅0.85mの長方形で、2-1層(褐色粘土層)内の西側を中心に人骨が出土した。人骨以外の遺物の出土はなかった。

3. 小 結

今回の調査地は、試掘ではあったが、墓地であったと確認できた。墓墳から遺物が出土していないため時期は確定できないが、周辺に点在する墓石を見る限り近世後半・近代のものと見られる。

調査地の西側隣接地には点々と墓石が存在しており、現在は分断されている墓地が住宅化する以前にあつては、いずれかの集落の墓地として面的に広がっていた可能性がある。その集落は、今は存在しない東側の中郷西遺跡の集落なのか、それとも他の集落なのかは今後の調査等により明らかにされる

であろう。

(参考文献)

- ・岩瀬彰利 (2007)『中郷遺跡 -牛川西部土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第90集、豊橋市教育委員会
- ・岩原剛 (2009)『洗島遺跡(Ⅱ)・西側遺跡(Ⅳ)・眼鏡下池北遺跡(Ⅱ)・中郷西遺跡(Ⅱ) -牛川西部土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書-』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第107集、豊橋市教育委員会

第7章 総 括

1. 今回の調査からみた課題

①. 眼鏡下池北遺跡

眼鏡下池北遺跡は、これまでの遺跡範囲の西端が今回の調査地までであったが、今回の平成20年度の発掘調査により、さらに西側に広がることが明らかとなった。特に縄文時代早期前半の遺構は、Ⅱ次調査区・Ⅲ次調査区と今回のⅣ次調査区が中心的位置に当たり、遺跡範囲の再考が必要な状態である。これまでに発見された早期の建物跡や炉穴・集石炉は、断片も多くその総数を掴みたいが百基近くにのぼり、眼鏡川の右岸（南向き斜面）を中心に東三河では最大規模の遺跡と評価される。早期の遺物は、隣接する浪ノ上遺跡や今回の西側遺跡においても竪穴式建物と共に発見されており、その範囲がさらに拡大することが予想される。

また、周辺を見ると、この眼鏡下池北遺跡から南南西約0.8kmに同じような環境と考えられる同時期の遺跡、おいはて遺跡がある。おいはて遺跡の詳細は不明であるが、遺跡の立地環境は牛川の段丘を開析する眼鏡川と同一方向の谷の南側斜面にある。この様な例は、他にも散見される。今後、この時期の東三河における周辺環境の復元が、遺跡立地の把握に重要な作業となると期待される。

②. 西側遺跡

西側遺跡が環濠遺跡であるという確証を、今回も得ることはできなかった。この報告書においても既成事実のように記述している弥生時代後期の環濠(101SD)については、その囲うべき集落の存在が希薄である。今回の調査で同時期の遺構は、A1地区では掘立柱式建物痕跡170SX・141SX、B地区が竪穴式建物痕跡206SBと土坑325SXがあるのみである。無いとは言えないが極めて少ない状況である。西側遺跡は、弥生時代の遺構の残りが悪いこともあり、後代の削平が大きかったためかも知れないが、やはり少ないという印象がぬぐえない。今後の調査により進展することを期待したい。

③. 西側古墓群

西側古墓群では、17～19世紀中葉までの同一場所における掘立柱式建物の変遷と存在が明らかにできた。近世における掘立柱式建物の存在は、既に知られていたことではあったが、改めてその存在を知ることとなった。今回の例は、近世に始まる小・中規模農家の変遷と見られるものであったが、400余年の間に家の規模も敷地の範囲もその時々で変化し、現在まで継続しているのが妙に新鮮に感じられた。建物構造についても、直屋建の部屋の変化が前広間三間取から広間三間取に、さらに整形四間取に変化する過程が明らかにできたこと、直屋建の土間部分が片屋根であったことなどがある。その後、本例は釜屋建に変化することは無かったようであるが、周辺では釜屋建に変化していったと推測された。今後は集落毎の違いがないのかなど、調査例の増加を待ちたい。

第7-1表 方形周溝墓一覽表

西側遺跡

地区名	方形周溝墓名	時代	平面形状	全長(m)	全幅(m)	首部長邊(m)	首部短邊(m)	主軸方位	出土遺物番号
A4	120052	長祿式	4階梯型	8.44	7.21	6.24	5.74	N-75°-E	763~768
A4	170052	長祿式	4階梯型	8.32	7.44	6.41	6.05	N-72°-E	767-848
A4	180052	長祿式	4階梯型	8.83	8.06	7.52	6.27	N-74°-E	884
A4	421452		4階梯型	9.00	6.40	7.80	5.20	N-61°-E	

西側古墓群

地区名	方形周溝墓名	時代	平面形状	全長(m)	全幅(m)	首部長邊(m)	首部短邊(m)	主軸方位	遺物番号
A	11052	雄略期	前方後方形	14.40	(10)	12.10	5.40	N-128°-E	870
B	67052	長祿式	全周型	(8.5)	(7.8)	6.80	(5.9)	N-61°-E	888
B	68252	長祿式	全周型	(7.8)	(6.1)	(6.8)	(5.7)	N-94°-E	888

第7-2表 掘立柱式建物一覽表

西側遺跡

地区名	建物名	時代	基礎構造	平面構造	桁行(m)	梁行(m)	床面積(m ²)	主軸方位	柱径(m)	備考
A1	11005B	平安	掘立柱式		11.19以上 8間以上 x+1.52+1.52+1.52+1.52+1.52+1.52+1.52	4.56 3間 1.52+1.52+1.52	50.03以上	N-58°-W	0.30	
A2	0155B		掘立柱式		3.33以上 2間以上 x+1.66+1.66	4.24 1間 4.24	14.14以上	N-84°-W		
A4	43075B	江戸	掘立柱式		3.34 2間 1.82+1.52	3.03 2間 1.21+1.82	10.12	N-24°-E		
A4	43025B	江戸	掘立柱式		6.00以上 3間以上 x+2.00+2.00+2.00	4.55 2間 2.00+2.55	27.30以上	N-67°-W	0.36	
A4	43035B	平安	掘立柱式		12.5以上 7間以上 1.7+1.7+1.7+1.7+2.0+2.0+1.7+x	4.43 2間 1.52+2.91	55.38以上	N-74°-E	0.33	
A4	43045B		掘立柱式		6.90 3間 2.30+2.30+2.30	3.82 2間 1.91+1.91	26.36	N-71°-W	0.30	
B	20755B	江戸	掘立柱式		7.28 4間 1.82+1.82+1.82+1.82	4.54 2間 2.27+2.27	33.05	N-69°-E		近世1

西側古墓群

地区名	建物名	時代	基礎構造	平面構造	桁行(m)	梁行(m)	床面積(m ²)	主軸方位	柱径(m)	備考
B	6845B	江戸	掘立柱式	直壁壁 前広部三脚取型	9.1 5間 1.82+1.82+1.82+1.82+1.82	6.82 2間 3.18+3.64	(82.1)	N-86°-E	0.2~0.3	近世1 牛馬倉付設
B	6855B	江戸	掘立柱式			6.67 3間 2.73+1.70+2.24		N-88°-E	0.35~0.4	近世2
B	6895B	江戸	掘立柱式	直壁壁 前広部三脚取型	7.28 4間 1.82+1.82+1.82+1.82	8.2 2間 3.78+4.42	75.2	N-93°-E	0.2~0.3	近世3
B	6895B	江戸	掘立柱式			7.38 2間 3.64+3.64		N-91°-E	0.3~0.35	近世4
B	6715B	江戸	掘立柱式			4.83 2間 2.27+2.56		N-97°-E	0.24~0.35	近世5
B	6735B	江戸	掘立柱式		4以上 2間以上 1.82+2.18+x	4 1間 2.18+1.82		N-89°-E	0.26~0.4	近世6
B	6765B	江戸	掘立柱式			3.40 2間 1.7+1.7		N-78°-E	0.20	近世6
B	6775B	江戸	掘立柱式	直壁壁 広間三脚取型	5.16以上 2間以上 2.58+2.58+(2.00)	7.28 4間 1.82+1.82+1.82+1.82	(84.3)	N-93°-E	0.25~0.38	近現代1
B	6805B	江戸 近代	掘立柱式		9.7 5間 1.91+1.70+1.81+1.70+2.51	3.21 1間 3.21	31.2	N-93°-E	0.20	近現代1
B	6815B	近代	礎石建式	直壁壁 墨形四脚取型	10.92 5間 2.64+2.64+(3.64)	7.28 2間 3.64+3.64	(106.0)	N-90°-E		近現代2

第7-3表 豎穴式建物一覽表

西側遺跡

施設名	形式 種類	時代	形式	高さ (m)	幅 (m)	長さ (m)	主軸方位	平面形状	用途	基壇	柱礎	土中遺物 (種類)	出土 品	附属物	建物番号
A1	1315B	古墳	平間1式 1段石段	4.50	3.24	0.20	N-41°-W	横長方形	有			伊(2)			300-300-307-308-309-310-311-312
A1	1400B	古墳	平間1式1 1段石段	3.00以上	3.10以上	0.05	N-5°-E	横長方形	有			有			300
A1	1415X	弥生	横間式石段 (山手式1式)	1.80以上	1.30以上	0.07	N-49°-W	方形							3013A
A1	1451B	古墳	横間式石段 (山手式1式)	4.20以上	3.80以上		N-65°-W	横長方形	有						
A1	1452B	古墳	横間式石段1 1段石段	5.30	5.00		N-68°-W	横長方形	有						
A1	1453B	古墳	横間式石段 1段石段	6.00	5.80	0.10	N-68°-W	横長方形	有			伊(1)	1029A		311-312-314-315-316-317-318-319-320
A1	1461B	古墳	横間式石段 1段石段	5.50	5.67	0.05	N-13°-E	横長方形	有			伊(2)	1001A		312-313-314-315-316-317-318-319-320-321-322-323-324-325-326-327-328-329-330-331-332-333-334-335-336-337-338-339-340-341-342-343-344-345-346-347-348-349-350-351-352-353-354-355-356-357-358-359-360-361-362-363-364-365-366-367-368-369-370-371-372-373-374-375-376-377-378-379-380-381-382-383-384-385-386-387-388-389-390-391-392-393-394-395-396-397-398-399-400-401-402-403-404-405-406-407-408-409-410-411-412-413-414-415-416-417-418-419-420-421-422-423-424-425-426-427-428-429-430-431-432-433-434-435-436-437-438-439-440-441-442-443-444-445-446-447-448-449-450-451-452-453-454-455-456-457-458-459-460-461-462-463-464-465-466-467-468-469-470-471-472-473-474-475-476-477-478-479-480-481-482-483-484-485-486-487-488-489-490-491-492-493-494-495-496-497-498-499-500-501-502-503-504-505-506-507-508-509-510-511-512-513-514-515-516-517-518-519-520-521-522-523-524-525-526-527-528-529-530-531-532-533-534-535-536-537-538-539-540-541-542-543-544-545-546-547-548-549-550-551-552-553-554-555-556-557-558-559-560-561-562-563-564-565-566-567-568-569-570-571-572-573-574-575-576-577-578-579-580-581-582-583-584-585-586-587-588-589-590-591-592-593-594-595-596-597-598-599-600-601-602-603-604-605-606-607-608-609-610-611-612-613-614-615-616-617-618-619-620-621-622-623-624-625-626-627-628-629-630-631-632-633-634-635-636-637-638-639-640-641-642-643-644-645-646-647-648-649-650-651-652-653-654-655-656-657-658-659-660-661-662-663-664-665-666-667-668-669-670-671-672-673-674-675-676-677-678-679-680-681-682-683-684-685-686-687-688-689-690-691-692-693-694-695-696-697-698-699-700-701-702-703-704-705-706-707-708-709-710-711-712-713-714-715-716-717-718-719-720-721-722-723-724-725-726-727-728-729-730-731-732-733-734-735-736-737-738-739-740-741-742-743-744-745-746-747-748-749-750-751-752-753-754-755-756-757-758-759-760-761-762-763-764-765-766-767-768-769-770-771-772-773-774-775-776-777-778-779-780-781-782-783-784-785-786-787-788-789-790-791-792-793-794-795-796-797-798-799-800-801-802-803-804-805-806-807-808-809-810-811-812-813-814-815-816-817-818-819-820-821-822-823-824-825-826-827-828-829-830-831-832-833-834-835-836-837-838-839-840-841-842-843-844-845-846-847-848-849-850-851-852-853-854-855-856-857-858-859-860-861-862-863-864-865-866-867-868-869-870-871-872-873-874-875-876-877-878-879-880-881-882-883-884-885-886-887-888-889-890-891-892-893-894-895-896-897-898-899-900-901-902-903-904-905-906-907-908-909-910-911-912-913-914-915-916-917-918-919-920-921-922-923-924-925-926-927-928-929-930-931-932-933-934-935-936-937-938-939-940-941-942-943-944-945-946-947-948-949-950-951-952-953-954-955-956-957-958-959-960-961-962-963-964-965-966-967-968-969-970-971-972-973-974-975-976-977-978-979-980-981-982-983-984-985-986-987-988-989-990-991-992-993-994-995-996-997-998-999-1000
A1	1775D			3.30以上	2.50以上	0.06	N-87°-W	横長方形	有						
A1	1915D			1.80以上	0.76以上	0.02	N-84°-W	横長方形	有						
A3	0015B	古墳	横間式石段 1段石段	4.90	3.24	0.10	N-68°-W	横長方形	有			伊(1)	1005A	108	
A3	0025B			3.44以上	2.1以上	0.08	N-84°-W	横長方形							
A3	0035B			3.65以上	1.63以上	0.01	N-84°-E	横長方形				有	1005A		
A3	0045B	古墳	横間式 (山手式1式)	4.80	3.04	0.03	N-70°-E	横長方形				龜(1)	1005A	215-216	
A3	0055B			2.3以上	1.7以上	0.06	N-79°-W	横長方形				有			
A3	0065B			3.43	1.3以上	0.10	N-82°-W	横長方形							
A3	0075B	横間	1段石段	4.15以上	1.8以上	0.07	N-83°-W	横長方形							212
A3	0075X	古墳	横間式石段 (山手式1式)	2.8以上	1.1以上	0.08	N-80°-W	横長方形							
A4	10005B	奈良	横間式	4.15	3.80	0.18	N-84°-E	方形				有	003P	743-744-745-746-747-748-749-750-751-752-753-754-755-756-757-758-759-760-761-762-763-764-765-766-767-768-769-770-771-772-773-774-775-776-777-778-779-780-781-782-783-784-785-786-787-788-789-790-791-792-793-794-795-796-797-798-799-800-801-802-803-804-805-806-807-808-809-810-811-812-813-814-815-816-817-818-819-820-821-822-823-824-825-826-827-828-829-830-831-832-833-834-835-836-837-838-839-840-841-842-843-844-845-846-847-848-849-850-851-852-853-854-855-856-857-858-859-860-861-862-863-864-865-866-867-868-869-870-871-872-873-874-875-876-877-878-879-880-881-882-883-884-885-886-887-888-889-890-891-892-893-894-895-896-897-898-899-900-901-902-903-904-905-906-907-908-909-910-911-912-913-914-915-916-917-918-919-920-921-922-923-924-925-926-927-928-929-930-931-932-933-934-935-936-937-938-939-940-941-942-943-944-945-946-947-948-949-950-951-952-953-954-955-956-957-958-959-960-961-962-963-964-965-966-967-968-969-970-971-972-973-974-975-976-977-978-979-980-981-982-983-984-985-986-987-988-989-990-991-992-993-994-995-996-997-998-999-1000	
A4	10015B	横間	1段石段	3.68	3.50	0.08	N-71°-W	方形							730
A4	10025B			5.18	4.73	0.08	N-88°-E	方形 (中平置)							
A4	10035B			5.80	4.10	0.03	N-102°-E	方形 (中平置)	有			1005A	1007A		
A4	10045B			2.32以上	1.7以上	0.02	N-89°-W	方形 (中平置)	有						
A4	10055B	縄文	平間式	3.10	2.40	0.16	不定形					伊(1)		347-352	
A4	10155B			4.15	4.45	0.10	N-82°-E	方形 (中平置)							
A4	10225B	平置	1段石段	2.80	2.80	0.12	N-84°-W	方形	有			伊(1)		762-763-764-765-766-767-768-769-770-771-772-773-774-775-776-777-778-779-780-781-782-783-784-785-786-787-788-789-790-791-792-793-794-795-796-797-798-799-800-801-802-803-804-805-806-807-808-809-810-811-812-813-814-815-816-817-818-819-820-821-822-823-824-825-826-827-828-829-830-831-832-833-834-835-836-837-838-839-840-841-842-843-844-845-846-847-848-849-850-851-852-853-854-855-856-857-858-859-860-861-862-863-864-865-866-867-868-869-870-871-872-873-874-875-876-877-878-879-880-881-882-883-884-885-886-887-888-889-890-891-892-893-894-895-896-897-898-899-900-901-902-903-904-905-906-907-908-909-910-911-912-913-914-915-916-917-918-919-920-921-922-923-924-925-926-927-928-929-930-931-932-933-934-935-936-937-938-939-940-941-942-943-944-945-946-947-948-949-950-951-952-953-954-955-956-957-958-959-960-961-962-963-964-965-966-967-968-969-970-971-972-973-974-975-976-977-978-979-980-981-982-983-984-985-986-987-988-989-990-991-992-993-994-995-996-997-998-999-1000	
A4	10415B	横間	1段石段	3.53	2.14	0.08	N-15°-E	横長方形				有			760-762-761
A4	10715B	奈良	横間式	2.72以上	2.00	0.05	N-84°-W	方形				有			760-760-760-761-762
A4	10815B			2.8以上	1.9以上	0.08	N-82°-W	方形	有						363
A4	10825B	横間	1段石段	2.32以上	2.2以上	0.06	N-83°-W	方形				伊(1)			760-762-761-760
A4	11405B			3.65	2.4以上	0.12	N-89°-E	方形				有	龜(1)		
A4	11415B			5.0以上	3.8以上	0.03	N-40°-E	方形	有			有			
A4	11505B	古墳	平間1式2	2.83	2.3以上	0.17	N-89°-E	方形				伊(1)			761-762-760
A4	11525B	古墳	平間1式1	2.82	1.6以上	0.04	N-77°-W	方形							368-760
A4	11545B	古墳	横間式石段	4.75	4.63	0.12	N-57°-W	方形	有			伊(1)			761-760-760-761-762-763-764-765-766-767-768-769-770-771-772-773-774-775-776-777-778-779-780-781-782-783-784-785-786-787-788-789-790-791-792-793-794-795-796-797-798-799-800-801-802-803-804-805-806-807-808-809-810-811-812-813-814-815-816-817-818-819-820-821-822-823-824-825-826-827-828-829-830-831-832-833-834-835-836-837-838-839-840-841-842-843-844-845-846-847-848-849-850-851-852-853-854-855-856-857-858-859-860-861-862-863-864-865-866-867-868-869-870-871-872-873-874-875-876-877-878-879-880-881-882-883-884-885-886-887-888-889-890-891-892-893-894-895-896-897-898-899-900-901-902-903-904-905-906-907-908-909-910-911-912-913-914-915-916-917-918-919-920-921-922-923-924-925-926-927-928-929-930-931-932-933-934-935-936-937-938-939-940-941-942-943-944-945-946-947-948-949-950-951-952-953-954-955-956-957-958-959-960-961-962-963-964-965-966-967-968-969-970-971-972-973-974-975-976-977-978-979-980-981-982-983-984-985-986-987-988-989-990-991-992-993-994-995-996-997-998-999-1000
A4	11555B	古墳	横間式石段	1.7以上	1.3以上	0.06	N-86°-W	方形				有	伊(1)		767
A4	11595B			2.4以上	1.00	0.02	N-60°-E	方形							
A4	11515B	古墳	横間式石段	5.53	4.77	0.03	N-13°-E	横長方形	有			有			760-760-761-762-763-764-765-766-767-768-769-770-771-772-773-774-775-776-777-778-779-780-781-782-783-784-785-786-787-788-789-790-791-792-793-794-795-796-797-798-799-800-801-802-803-804-805-806-807-808-809-810-811-812-813-814-815-816-817-818-819-820-821-822-823-824-825-826-827-828-829-830-831-832-833-834-835-836-837-838-839-840-841-842-843-844-845-846-847-848-849-850-851-852-853-854-855-856-857-858-859-860-861-862-863-864-865-866-867-868-869-870-871-872-873-874-875-876-877-878-879-880-881-882-883-884-885-886-887-888-889-890-891-892-893-894-895-896-897-898-899-900-901-902-903-904-905-906-907-908-909-910-911-912-913-914-915-916-917-918-919-920-921-922-923-924-925-926-927-928-929-930-931-932-933-934-935-936-937-938-939-940-941-942-943-944-945-946-947-948-949-950-951-952-953-954-955-956-957-958-959-960-961-962-963-964-965-966-967-968-969-970-971-972-973-974-975-976-977-978-979-980-981-982-983-984-985-986-987-988-989-990-991-992-993-994-995-996-997-998-999-1000
A4	26875X			2.1以上	1.8以上	0.02	N-35°-W	方形				有			
B1	2065B	奈良	横間式	4.20	3.30	0.06	N-90°-E	方形				龜(1)			229-228
B1	3115B	奈良	横間式	6.40	5.85	0.02	N-4°-E	方形	有			有	1007A	348-351	
B1	20735B	弥生	山手1式1	4.7以上	4.3以上	0.08	N-63°-E	横長方形	有						320-321-322-323-324-325-326-327-328-329-330-331-332-333-334-335-336-337-338-339-340-341-342-343-344-345-346-347-348-349-350-351-352-353-354-355-356-357-358-359-360-361-362-363-364-365-366-367-368-369-370-371-372-373-374-375-376-377-378-379-380-381-382-383-384-385-386-387-388-389-390-391-392-393-394-395-396-397-398-399-400-401-402-403-404-405-406-407-408-409-410-411-412-413-414-415-416-417-418-419-420-421-422-423-424-425-426-427-428-429-430-431-432-433-434-435-436-437-438-439-440-441-442-443-444-445-446-447-448-449-4

遺物觀察表

作品 番号	配信 形態	ジャンル	視聴者 対象	放送局	原簿	地上 波等	放送/配信 日時	放送 時間	放送/配信 回数	内容作成形態	内容作成形態	内容作成形態	脚本	演出	監督	備考
001	B	—	社会系	1期	映画	第1次入札	—	—	(11/2)	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「スズパチ」内 第1-第2回
002	B	—	社会系	1期	映画	長瀬	—	—	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
003	B	—	社会系	1期	映画	長瀬	12.3	6.3	10-13	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
004	A	D12	歴史	—	—	—	—	—	(8/6)	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
005	A	D12	歴史	—	—	—	—	—	(8/6)	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
006	A	D12	歴史	—	—	—	—	—	(8/6)	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
007	A	D12	歴史	—	—	—	—	—	(8/6)	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
008	A	D12	歴史	—	—	—	—	—	(8/6)	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
009	A	D12	歴史	—	—	—	—	—	(8/6)	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
010	A	D12	歴史	—	—	—	—	—	(8/6)	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
011	A	E13	0115K	1期	漫画	丸瀬	9.8	—	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
012	A	E13	0115K	1期	漫画	丸瀬	9.8	2.4	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
013	A	E13	0115K	1期	漫画	丸瀬	9.8	2.4	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
014	A	E12	0025K	1期	漫画	丸瀬	22.6	—	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
015	B	D12	漫画	1期	映画	丸瀬	—	—	(18/2)	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
016	B	D12	漫画	1期	映画	丸瀬	—	—	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
017	B	D13	0410K	2期	漫画	丸瀬	—	—	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
018	B	D13	0410K	2期	漫画	丸瀬	—	—	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
019	B	D13	0410K	2期	漫画	丸瀬	—	—	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
020	B	D13	0410K	2期	漫画	丸瀬	—	—	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
021	B	D13	0410K	2期	漫画	丸瀬	—	—	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
022	B	D13	0410K	2期	漫画	丸瀬	—	—	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
023	B	D13	0410K	2期	漫画	丸瀬	—	—	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
024	B	D13	0410K	2期	漫画	丸瀬	—	—	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
025	B	D13	0410K	2期	漫画	丸瀬	—	—	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
026	B	D13	0410K	2期	漫画	丸瀬	—	—	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
027	B	D13	0410K	2期	漫画	丸瀬	—	—	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」
028	B	D13	0410K	2期	漫画	丸瀬	—	—	—	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	「昭和南ナデ」	菅	長村	23分/1 放送	「昭和南ナデ」

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

原簿 番号	地区 番号	プリント 番号	原簿名	原簿名	原簿 種別	取上 種別	産地/材質	原 価	口税 率	原簿 重量 (kg)	内装成形部材	外装成形部材	巻部成形部材	組 立	原 価 率	色 調	備 考
330	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
400	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
401	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
402	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
403	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
404	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
405	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
406	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
407	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
408	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
409	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
410	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
411	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
412	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
413	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
414	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
415	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
416	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
417	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
418	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
419	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
420	82	203	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
421	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
422	82	203	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
423	82	203	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
424	82	203	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
425	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—
426	82	204	100050	—	1層	—	縦張(黒) 小判(銀) (塩化銅)	5.5	2.8	2.6	—	—	—	—	—	—	—

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

番号	地区名	ジャンル	選考名	原題名	種別	地上 番号	配給/制作 会社/制作	原 価	原 価	原価/99%	内装成歩留率	外装成歩留率	造歩成歩留率	巻 数	原 価 見込	色 調	備 考
595	A1	H15	1305B	②	4巻	018	チャート 制作	4.2	2.3	1.2				13.2			→中巻物(注意)
596	A1	H15	1305B	②	4巻	017	緑色映画 若竹丁	18.0	14.9	13.0				23.8			→後巻物(注意) C7巻物(8mm)上 巻物(8mm)
597	A1	H15	2505X	②	8巻	008	新巻 新巻	116.0	14.1	11.0				95.9			→後巻
598	A1	H15	2505X	②	8巻	011	新巻 新巻	111.0	17.5	14.0				270			→後巻
599	A1	G15	2505X	5巻/1巻	4巻	—	新巻 新巻	10.0	12.0	14.3				16.5			→後巻
600	A1	H15	2515X	②	8巻	009	新巻 (新巻)	17.0	13.1	19.0				110.8			→後巻
601	A1	G15	2515X	②	8巻	—	新巻(中巻)	110.0	14.1	2.7				1690			→後巻
602	A1	G15	2550D	—	3巻	⑤	新巻片巻 (新巻)	8.4	7.4	5.3				470			→後巻(注意)
603	A1	G15	2550D	—	3巻	⑤	新巻片巻 (新巻)	8.4	5.4	3.8				200			→後巻
604	A1	H14	1455B (1445B) 1055B	②	8巻	019	新巻片巻 新巻	17.0	11.8	4.8				1410			→後巻
605	A1	H15	1055B	②	8巻	020	新巻片巻 新巻	12.0	2.0	0.7				4.5			
606	A1	H15	1045B	—	3巻	—	新巻 新巻	18.1	19.1	4.9				200			→後巻の可成り むずかしい
607	A1	H14	1045B	—	3巻	—	新巻 新巻	17.1	12.0	10.5				13.1			
610	A1	G17	0555K	—	Asac 3巻	—	新巻(新巻) 新巻	7.1	8.4	3.6				1290			→内装成歩留率 新巻(注意) 下巻 巻物(注意)上、下 巻物
611	A1	G17	0555K	—	Asac 3巻	—	新巻(新巻) 新巻	—	—	—	→ナゾ	→後巻(新巻)	—	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
612	A1	G17	0555K	—	Asac 3巻	—	新巻(新巻) 新巻	—	—	7.4	→ナゾ	→後巻(新巻)	→ナゾ	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
613	A1	G17	0555K	—	Asac 3巻	—	新巻(新巻) 新巻	23.8	—	—	→ナゾ	→後巻(新巻) (注意)ナゾ	—	後巻 →後巻(注意) 下巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
614	A1	G17	0555K	—	Asac 3巻	—	新巻(新巻) 新巻	—	—	—	→ナゾ	→後巻(新巻) (注意)ナゾ	—	後巻 →後巻(注意) 下巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
615	A1	G17	0555K	—	Asac 3巻	—	新巻(新巻) 新巻	—	—	—	→ナゾ	→後巻(新巻)	—	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
616	A1	G17	0555K	—	Asac 3巻	—	新巻(新巻) 新巻	129.1	—	—	→ナゾ	→後巻(新巻) (注意)ナゾ	—	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
617	A1	N8	1805K	—	3巻	—	新巻(新巻) 新巻	—	—	—	→ナゾ	→後巻(新巻) (注意)ナゾ	—	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
618	A1	G8	2005K	—	3巻	—	新巻(新巻) 新巻	131.0	—	14.0	→ナゾ	→後巻(新巻) (注意)ナゾ	—	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
619	A1	G8	2005K	—	3巻	—	新巻(新巻) 新巻	—	—	14.0	→ナゾ	→後巻(新巻) (注意)ナゾ	—	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
620	A1	G8	X33	—	1巻	—	新巻(新巻) 新巻	18.1	13.1	0.2	→ナゾ	→後巻(新巻)	—	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
621	A1	G7	X34	—	1巻	—	新巻(新巻) 新巻	11.0	14.0	—	→ナゾ	→後巻(新巻)	—	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
622	A1	G6	X35	—	1巻	—	新巻(新巻) 新巻	11.0	14.0	13.0	→ナゾ	→後巻(新巻)	—	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
623	A1	N8	1805K	—	1巻 2巻	—	新巻(新巻) 新巻	11.0	14.0	2.3	→ナゾ	→後巻(新巻)	—	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
624	A1	N8	1805K	—	1巻 2巻	—	新巻(新巻) 新巻	11.0	14.0	2.3	→ナゾ	→後巻(新巻)	—	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
625	A1	N8	1805K	—	1巻 2巻	—	新巻(新巻) 新巻	11.0	14.0	2.3	→ナゾ	→後巻(新巻)	—	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
626	A1	G4	0185K	—	3巻	—	新巻(新巻) 新巻	11.0	14.0	—	→ナゾ	→後巻(新巻)	—	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
627	A1	G6	0015D	14805Kの 下巻	3巻	—	新巻(新巻) 新巻	11.0	14.0	—	→ナゾ	→後巻(新巻)	—	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
628	A1	G6	0015D	14805Kの 下巻	3巻	—	新巻(新巻) 新巻	11.0	14.0	—	→ナゾ	→後巻(新巻)	—	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻
629	A1	G6	0015D	14805Kの 下巻	3巻	—	新巻(新巻) 新巻	11.0	14.0	—	→ナゾ	→後巻(新巻)	—	後巻 新巻(注意)	1810/14 11.0/14		→後巻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建物 番号	地区 名	グランド 番号	所在地	区画 名称	用途 種別	地上 階数	用途/状況 等	建築 面積	延床面積 (㎡)	容積率 (%)	内部構造 等	外装構造 等	基礎構造 等	柱・梁 等	壁・床 等	屋根 等	備考
838	A4	08	14855X	—	3層	—	土庫部 鉄(内瓦葺)	122.8	—	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	中・中良	—	18707/2 にのみ(養育 外)	・スリッパ(内・ 外)
839	A4	08	1486P	—	3層	—	土庫部 小良	116.0	1.0	13.0	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	良	2.571/2 良	—
840	A4	08	1501P	—	3層	—	土庫部 小良(内瓦 葺)	8.1	1.0	1.0	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	不良	2.571/2 良	・スリッパ ・スリッパ(内・ 外)
841	A4	08	10055D	Asa内	2層	—	土庫部 小良	13.0	1.0	1.0	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	中・中良	良	2.571/2 良	—
842	A4	08	15155K	—	3層	75	土庫部 鉄(内瓦葺)	8.8	0.3	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	良	2.571/2 にのみ(養育 外)	・スリッパ ・スリッパ(内・ 外)
843	A4	08	16205K	11km内	20層	—	土庫部 鉄(内瓦葺)	11.0	—	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	中・中良	中・中良	2.571/2 にのみ(養育 外)	—
844	A5	08	16217K	2km内	21層	—	土庫部 鉄(内瓦葺)	11.0	—	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	中・中良	中・中良	2.571/2 にのみ(養育 外)	—
845	A4	N7	1588P	—	3層	—	土庫部 中良	118.0	1.0	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	中・中良	18713/196/4 良	—
846	A4	08	17915D	—	3層	50	土庫部 鉄(内瓦葺)	—	—	13.0	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	中・中良	18713/196/4 にのみ(養育 外)	—
847	A4	N7	1792P	—	3層	—	土庫部 中良	11.0	2.4	1.0	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	中・中良	18713/196/4 にのみ(養育 外)	—
848	A4	N7	17225K	—	3層	—	土庫部 中良	—	—	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	—	1.0	—	—
849	A4	N7	1732P	—	3層	—	土庫部 中良	118.0	1.0	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	良	2.571/2 良	—
850	A4	N7	1732P	—	3層	—	土庫部 中良	—	—	1.0	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	良	18713/196/4 にのみ(養育 外)	—
851	A4	N7	1732P	—	3層	—	土庫部 中良	—	—	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	良	18713/196/4 にのみ(養育 外)	—
852	A4	N8	17955D	Asa	2層	—	土庫部 中良	10.0	2.0	1.0	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	良	2.571/2 良	—
853	A4	N8	17955D	Asa	2層	—	土庫部 中良	31.0	14.0	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	中・中良	良	2.571/2 良	—
854	A4	08	17955D	—	2層	—	土庫部 中良	11.0	1.0	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	良	18713/196/4 にのみ(養育 外)	—
855	A4	08	17955D	—	2層	—	土庫部 中良	11.0	1.0	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	中・中良	18713/196/4 にのみ(養育 外)	—
856	A4	08	17955D	Asa	2層	—	土庫部 中良	11.0	1.0	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	良	2.571/2 良	—
857	A4	08	17955D	Asa	2層	—	土庫部 中良	11.0	1.0	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	中・中良	18713/196/4 にのみ(養育 外)	—
858	A4	08	17955D	Asa	2層	—	土庫部 中良	11.0	1.0	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	良	2.571/2 良	—
859	A4	08	17955D	Asa	2層	—	土庫部 中良	11.0	1.0	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	中・中良	18713/196/4 にのみ(養育 外)	—
860	A4	08	17955D	Asa	2層	—	土庫部 中良	11.0	1.0	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	中・中良	18713/196/4 にのみ(養育 外)	—
861	A4	08	17955D	Asa	2層	—	土庫部 中良	11.0	1.0	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	中・中良	18713/196/4 にのみ(養育 外)	—
862	A4	08	17955D	Asa	2層	—	土庫部 中良	11.0	1.0	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	良	2.571/2 良	—
863	A4	08	17955D	Asa	2層	—	土庫部 中良	11.0	1.0	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	良	2.571/2 良	—
864	A4	08	17955D	Asa	2層	—	土庫部 中良	11.0	1.0	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	良	2.571/2 良	—
865	A4	08	17955D	Asa	2層	—	土庫部 中良	11.0	1.0	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	中・中良	18713/196/4 にのみ(養育 外)	—
866	A4	08	17955D	Asa	2層	—	土庫部 中良	11.0	1.0	—	・鉄オスエー一階 ・鉄オスエー二階 ・鉄オスエー三階	—	—	良	中・中良	18713/196/4 にのみ(養育 外)	—

[illegible]

号数	地区 番号	グッド 名	通称名	区画名	形状	土地 上物 名称	用途/材質	積 算	口積 積算	敷地 面積	建物/中 敷面積	内装完成面積	内装完成面積	建物完成面積	耐土	完成 状況	色	備 考
894	A4	N7	17495D	—	2層	80	住宅土庫 窓(2口)	—	—	7.2	—	—	—	—	耐土	中々良	2.574/4 黄色 耐土土庫 耐土土庫	—
895	A4	O7	2041P	—	3層	—	両面 両大	奥3 2.2	幅 2.4	—	—	—	—	—	—	14.3	—	—
896	A4	N7	2107P	C	2層	—	両面(両大) 窓	(1.6)	—	—	—	—	—	—	耐土	中々良	2.574/4 黄色 耐土土庫 耐土土庫	—
897	A4	N8	2205P	—	2層	84	両面(両大) 窓(2口) 両大	(1.0)	—	—	—	—	—	—	耐土	良好	2.571/3 黄色	—
898	A4	N8	23805A 5m内北	2層	—	土庫	小窓	(0.6)	(1.8)	—	—	—	—	—	耐土	良好	2.574/4 黄色	—
899	A4	N8	25155D	—	2層	—	土庫	土庫	口積0.2 幅2.1 奥1.7 奥大1.7 奥2.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
900	A4	N8	25465K	—	2層	—	両面	洋	(1.6)	—	—	—	—	—	耐土	良好	2.571/3 黄色	—
901	A4	O9	27005D	—	3層	—	土庫	小窓	(1.6)	—	—	—	—	—	耐土	良好	2.571/3 黄色	—
902	A4	O9	27005D	—	3層	—	土庫	中窓	(1.2)	—	—	—	—	—	耐土	良好	2.571/3 黄色	—
903	A4	P9	27105A	—	2層	79	土庫	高所	—	—	—	—	—	—	耐土	中々良	2.571/3 黄色 2.17.4 に広い	—
904	A4	P9	27105A	—	2層	80	土庫	窓(1口型小窓)	(1.2) (1.3) (1.8)	—	—	—	—	—	耐土	中々良	2.571/3 黄色 2.17.4 に広い	—
905	A4	P9	27105A	—	2層	81	土庫	窓(1口型小窓)	(0.6)	(1.0)	—	—	—	—	耐土	中々良	2.571/3 黄色 2.17.4 に広い	—
906	A4	P9	27135A	—	3層	—	土庫	高所	—	—	(1.6)	—	—	—	耐土	良好	2.571/3 黄色 2.17.4 に広い	—
907	A4	P9	27105A	—	3層	—	土庫	窓(1口型小窓)	(1.4) (1.9)	(1.2)	—	—	—	—	耐土	中々良	2.571/3 黄色	—
908	A4	O9	28105A	—	2層	—	土庫	中窓	(1.4) (1.6)	(1.0)	—	—	—	—	耐土	中々良	2.571/3 黄色	—
909	A4	N8	34005D ①	3層	—	土庫	高所	—	—	(0.8)	—	—	—	—	耐土	良好	2.571/3 黄色 2.17.4 に広い	—
910	A4	N8	34005D ②	3層	—	両面	洋窓	洋窓	(1.2)	—	—	—	—	—	耐土	良好	2.571/3 黄色	—
911	A4	N8	34005D ③	3層	—	両面	洋窓	洋窓	(0.8)	—	—	—	—	—	耐土	中々良	2.571/3 黄色	—
912	A4	N8	34005D ④	3層	—	両面	洋窓	洋窓	—	—	—	—	—	—	耐土	中々良	2.571/3 黄色	—
913	A4	N8	34005D ⑤	3層	—	土庫	洋	洋	(1.8)	—	—	—	—	—	耐土	中々良	2.571/3 黄色 2.17.4 に広い	—
914	A4	N9	2002P	—	2層	82	土庫	中窓	11.3 2.3	7.5	—	—	—	—	耐土	中々良	2.571/3 黄色 2.17.4 に広い	—
915	A4	N8	26005X ①	2層	—	両面	洋窓	洋窓	(1.8)	—	—	—	—	—	耐土	良好	2.571/3 黄色	—
916	A4	P9	2022P	3層	—	土庫	窓(2口)	窓(2口)	1.3	—	—	—	—	—	耐土	中々良	2.571/3 黄色 2.17.4 に広い	—
917	A4	N6	X40	—	1層	—	倉庫(木造土庫)	20.7	—	—	—	—	—	—	耐土	良好	2.571/3 黄色	—
918	A4	N6	X40	—	1層	—	倉庫(木造土庫)	25.1	—	—	—	—	—	—	耐土	中々良	2.571/3 黄色	—
919	A4	N7	X40	—	2層	—	倉庫(木造土庫)	23.1	—	—	—	—	—	—	耐土	中々良	2.571/3 黄色	—
920	A4	Q7-R7	2022P	—	1+2層	—	倉庫(木造土庫)	20.6	—	—	—	—	—	—	耐土	中々良	2.571/3 黄色	—
921	A4	P9	2022P	—	1+2層	—	倉庫(木造土庫)	20.6	—	—	—	—	—	—	耐土	中々良	2.571/3 黄色	—
922	A4	N7	1056D	—	3層	—	蔵(木造土庫)	—	—	—	—	—	—	—	耐土	中々良	2.571/3 黄色	—
923	A4	N8	1956D-f	—	3層	—	倉庫(木造土庫)	—	—	—	—	—	—	—	耐土	良好	2.571/3 黄色	—
924	A4	N8	1956D-f	—	3層	—	倉庫(木造土庫)	—	—	—	—	—	—	—	耐土	中々良	2.571/3 黄色	—

品番	規格	グランド 品名	規格名	尺組名	単位	取上 寸法	形状/材質	部 材	口 径	軸 径	重量 (kg)	内蔵式制御盤	外蔵式制御盤	取付式制御盤	動 土	備 考 (注)	色 番	備 考	
925	A4	N6	1905D-8	—	3巻	—	糸巻式系止 巻部	—	130φ	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
926	A4	P6	1905A	—	3巻	—	糸巻式系止 巻部	—	125.8φ	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
927	A4	N7	1905D-8	—	3巻	22	糸巻式系止 巻部	—	—	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
928	A4	N7	1905D①	—	3巻	—	糸巻式系止 巻部	—	—	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
929	A4	N7	1905D①	—	3巻	—	糸巻式系止 巻部	—	—	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
930	A4	N7	1905D①	—	3巻	—	糸巻式系止 巻部	—	—	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
931	A4	N7	1905D① B-6"size	3巻	—	—	糸巻式系止 巻部	—	—	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
932	A4	N7	1905D① B-6"size	3巻	—	—	糸巻式系止 巻部	—	—	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
933	A4	P8	1123P	—	3巻	—	糸巻式系止 巻部	—	178φ	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
934	A4	P9	11709R 12mmφ	22巻	—	—	糸巻式系止 巻部口線部	—	—	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
935	A4	P7	1343P	—	3巻	—	糸巻式系止 巻部	—	—	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
936	A4	P9	1674P	—	3巻	—	糸巻式系止 巻部	—	—	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
937	A4	N8	1605K	—	3巻	—	糸巻式系止 巻部	—	—	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
938	A4	N8	1605K	—	3巻	—	糸巻式系止 巻部	—	—	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
939	A4	N8	1605K	—	3巻	—	糸巻式系止 巻部	—	—	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
940	A4	O7	1702D (1mmφ)	3巻	—	—	糸巻式系止 巻部	—	—	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
941	A4	N8	1789P	—	3巻	—	糸巻式系止 巻部	—	—	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
942	A4	N8	2360B	—	3巻	—	糸巻式系止 巻部	—	—	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
943	A4	N8	3360K	—	3巻	—	糸巻式系止 巻部	—	—	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
944	A4	N8	3405D ②	3巻	—	—	糸巻式系止 巻部	—	112φ	—	—	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	「指サエ」一巻サ ズ	—	部 材 取付寸法	中不巻 2137/1 に引く	—	口線部
945	A4	O7	330	—	1巻	—	磁石	磁石	16.8φ	9.7	0.47	—	—	—	205.0	—	—	—	口線部
946	A4	M7 N7	N40	—	磁石	—	磁石	磁石内巻 磁石 磁石外巻 磁石	12.5φ	3.6	1.40	—	—	—	20.0	—	—	—	口線部
947	A4	—	緑土中	—	—	—	シート (灰色)	磁石(平巻 磁石式)	12.5φ	2.2	0.81	—	—	—	12.0	—	—	—	口線部
948	A4	O4	0985K 両平	3巻	—	—	磁石	磁石	12.5φ	4.6	0.43	—	—	—	160.7	—	—	—	口線部
949	A4	O4	0985K 両平	3巻	—	—	磁石内巻 磁石	磁石	18.1φ	6.1	0.19	—	—	—	290.0	—	—	—	口線部
950	A4	O7	0985K 両平内	1巻	—	—	磁石巻	磁石	14.3φ	2.2	1.71	—	—	—	10.7	—	—	—	口線部
951	A4	O7	0985K A-6"sizeφ	1巻	009	—	磁石内巻	磁石	14.6φ	13.0	0.40	—	—	—	1980.0	—	—	—	口線部
952	A4	O7	0985K A-6"sizeφ	3巻	—	—	磁石巻	磁石	18.0φ	14.7φ	1.31	—	—	—	21.1	—	—	—	口線部
953	A4	O7	14615R ②	1巻	079	—	シート	磁石	11.8φ	3.6	0.46	—	—	—	9.7	—	—	—	口線部
954	A4	O7	14605R	—	3巻	—	磁石巻	磁石	11.8φ	9.7	0.46	—	—	—	79.0	—	—	—	口線部
955	A4	O8	11515R	—	3巻	—	磁石	磁石	11.8φ	17.0φ	0.49	—	—	—	80.0	—	—	—	口線部
956	A4	P8	11805A	—	3巻	—	磁石巻	磁石	14.3φ	2.3	1.31	—	—	—	11.1	—	—	—	口線部
957	A4	P8 O8	14195A	—	3巻	78	磁石巻	磁石	29.2φ	12.9φ	0.91	—	—	—	3.2	—	—	—	口線部
958	A4	N8	2359P	—	3巻	—	磁石巻 (両巻+磁石)	磁石	12.6φ	12.6φ	1.31	—	—	—	1.2	—	—	—	口線部

[illegible]

建物 番号	地区 名	グランド 名	経緯名	緯度	地上 高	造形/材質	標 高	口部 直径	埋込 深	埋込/管 径(Dm)	内装成形部材	外装成形部材	造形成形部材	材 質	備 考	
000	A	C4	00700	—	4階下層	—	高層型 石造(打石 積み石造)	2.1	1.8	0.4					000	— 「竣工工事」同 一箇 所 「竣工工事」